



# 月刊 もぐら通信

Mole Communication Monthly Magazine

2023年1月1日 第122号 初版

[www.abekobosplace.blogspot.jp](http://www.abekobosplace.blogspot.jp)

あなたへ：  
迷う事のない迷路を通して  
あなただけの番地に届きます

かつて地球は巨大な迷路だった。空間的な迷路だったばかりでなく、いくつもの異なった試合がモザイク状に入り組んだ、いわば袋小路の集合体のような存在だった。

(『地球の虫食穴への旅』：全集第25巻、359ページ)



安部公房の広

[blogspot.jp](http://www.abekobosplace.blogspot.jp)



『S・カルマ氏の犯罪』の最後に登場する  
非ユークリッド空間を映写する映写機

目次

- 1 目次…page 2
  - 2 記録&ニュース&掲示板…page 3
  - 3 巻頭詩（10）：一つのメルヘン：中原中也…page 7
  - 4 『周辺飛行』論（33）：3。『周辺飛行』について（21）：次の小説のためのノートより——周辺飛行30：岩田英哉…page 8
  - 5 『砂漠の思想』を読む（9）：Iヘテロの構造/へびについてI：岩田英哉…page 15
  - 6 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（4）：塔の文学：3。三島由紀夫の塔と安部公房の塔/3.3 安部公房の塔：岩田英哉…page 21
  - 7 ネット・メディア論（11）：6.5 何故民主主義は共産主義であるのか：岩田英哉…page 24
  - 8 Mole Hole Letter（48）：サークル活動から箱男活動へ…page 30
  - 9 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（11）：5.16.3「聞こし召す」前に「しろし召す」がある/（2）第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓：岩田英哉…page 34
  - 10 Topologyで日本の文化を解説する「内なる境界」シリーズ（11）：稲荷寿司とは何か：岩田英哉…page 41
  - 11 編集後記…page 45
- 
- ・連載物・単発物次回以降予定一覧…page 43
  - ・編集方針…page 46

PDFの検索フィールドにページ数を入力して検索すると、恰もスバル運動具店で買ったジャンプ・シューズを履いたかのように、あなたは『密会』の主人公となって、そのページにジャンプします。そこであなたが迷い込んで見るのはカーニヴァルの前夜祭。

## ニュース&記録&掲示板

### The best tweets of the month



該当なし



該当なし

#### 今月の詩人の生涯

川本喜八郎／川本プロダクション公式@chirok\_kawamoto・Aug 18

詩人の生涯

A Poet's Life

制作年月：1974年

上映時間：19分

安部公房原作の「詩人の生涯」をカットアウト（切り紙）アニメーションで表現した。

（8/23川本プロダクションyoutubeチャンネルにて公開）

<http://chirok.jp/news/detail.html?id=42>



東雅夫 | O.Z.N. (おばけずきネットワーク) @obakezuginw-9h

どれも必見ですが、「詩人の生涯」は、安部公房の幻想短篇をヴィジュアルライズした逸品。澁澤龍彦鍾愛の一篇でもありますね（『暗黒のメルヘン』所収）。

川本喜八郎／川本プロダクション公式@chirok\_kawamoto・ Aug 21

[再告知]川本プロダクションは、人形美術家・アニメーション作家・川本喜八郎の命日にあたる8月23日の11時から23時まで時間限定で、川本が遺した人形アニメーション4作品をyoutubeにて公開いたします。作品は「花折り」「鬼」「道成寺」「詩人の生涯」です。

#川本喜八郎

<https://youtube.com/channel/UCPIONUkLPLuLv4aYvy41wgA...>

五月@may\_gogatu・2h

安部公房原作。なんともシュールなアニメーションであるが、デフレの現在、奇妙なりアリティに圧倒される：詩人の生涯 - YouTube



川本プロダクション

川本 喜八郎 (かわもと きはちろう) KII

KAWAMOTO 1925年1月11日～2010年8

[youtube.com](https://youtube.com)

Shima Shima@ShimaShima7·4h

さっそく「詩人の生涯」を見る。これは紙の置き換えアニメーション。繊細なタッチ。安部公房の原作にぴったりな陰影。それにしても現在も当時とまるつきり変わらない日本の状況であることに唖る。政治は一つも良くなってないな。詩人の言葉は今も空から降り積もっているはずなのに。 #川本喜八郎

### 今月の人魚伝

津川智宏@Ysenpai·Aug 19  
安部公房 人魚伝です

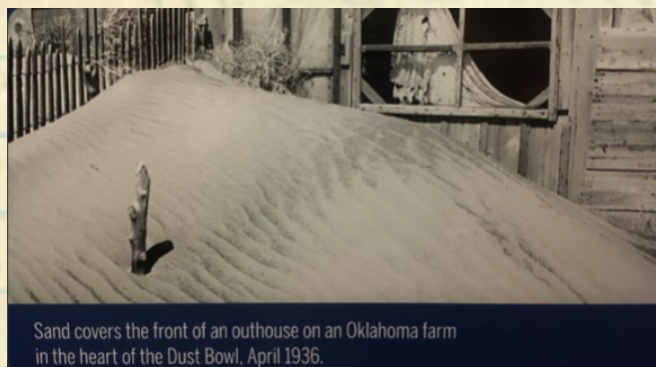


### 今月の砂の女

harulifigure1@harulifigure1·Aug 20

「砂の女」安部公房 1962年刊行。1964年勅使河原宏監督のもと映画化。映像のインパクトが強烈的な映画だった。

第32代大統領フランクリン・ルーズベルトが生まれ育ったHyde Park (ハイドパーク) にあるミュージアムでこの写真を見たとき、勅使河原監督の「砂の女」が、思い浮かんだ。



### 今月の無名詩集：リンゴの実

madeleine@storyforf·Aug 21

僕も亦その途を行けるだらうか  
球体への涯しない内部の途を  
窮め得ぬその面（も）の影にさながら  
路標（しるべ）なき存在を泣かぬだらうか  
君が差出した一つの結実を  
今僕は唯明るい夢の様に怖れる  
涙も亦一つの球体ではなかったか

——安部公房「リンゴの実」より

### 今月のR62号の発明

柴田勝博@kindpaleblue・Aug 22

【R62号の発明】 安部公房/カセットブック <https://youtu.be/NKuZv9OOhig>  
@YouTube

【R62号の発明】 安部公房/カセットブック  
新潮カセットブック【R62号の発明】 出演：佐藤慶（R62号）、三谷昇（高水）、佐藤博（学生）、田島令子（花井）、草野大悟（草井）、小池朝雄（所長） #カセットブック #ラジオドラマ #オーディオブック

[https://www.youtube.com/watch?  
time\\_continue=5&v=NKuZv9OOhig&feature=emb\\_logo](https://www.youtube.com/watch?time_continue=5&v=NKuZv9OOhig&feature=emb_logo)

### 今月の箱男

柴田勝博@kindpaleblue・Aug 22

安部公房 小説を生む発想 「箱男」について 4.wmv [https://youtu.be/5N68d2rX\\_Tk](https://youtu.be/5N68d2rX_Tk)  
@YouTubeより

[https://www.youtube.com/watch?  
time\\_continue=1&v=5N68d2rX\\_Tk&feature=emb\\_logo](https://www.youtube.com/watch?time_continue=1&v=5N68d2rX_Tk&feature=emb_logo)

### 今月の読書会

前橋文学会@maebun2020・Aug 21

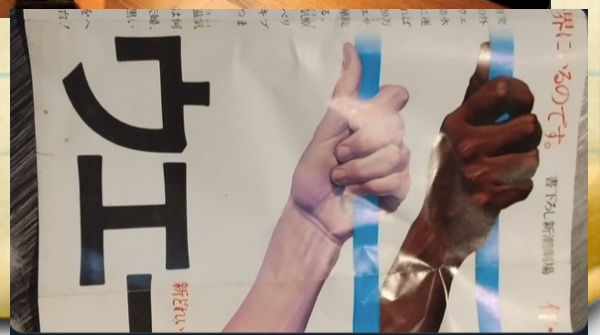
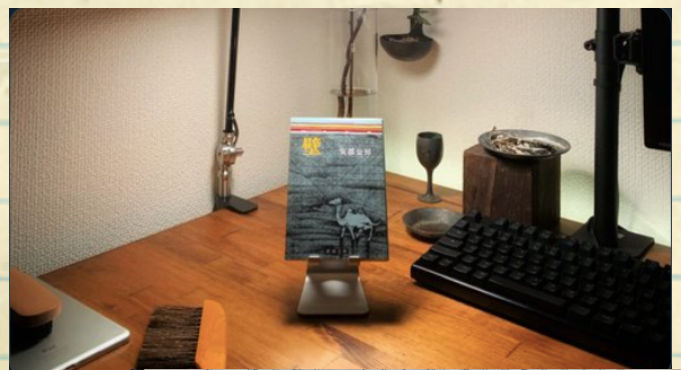
【文芸読書会のご案内】  
安部公房 『水中都市』  
9月3日(木) 18時～20時  
読書会はzoomにて行っています。  
興味のある方はご連絡ください。

### 今月の壁

ぼうぼうや@bobooubou・Aug 18  
壁/安部公房  
読む、

### 今月のウエー

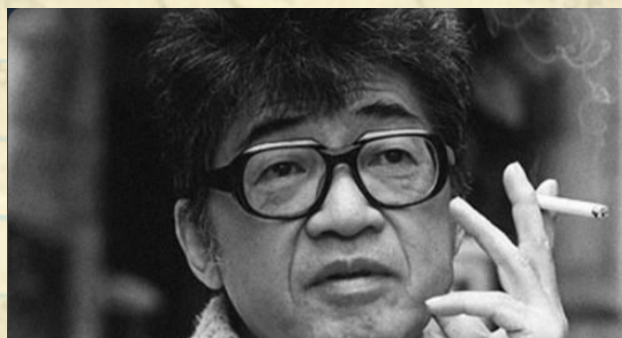
真希緒@makiw0@makiw0・Aug 19  
安部公房 ウエー どれい狩りの古本の中には  
はさまっていた、当時の劇のチラシ



### 今月の公房眼鏡

アタル@hvXFjed7NouGfzZ・Aug 20

安部公房のメガネ



### 今月の箱男

ネムリ堂@nemuridoh・Aug 17

段ボールで個室を作ったら、籠りきりになりました。安部公房のリアル箱男が我が家に光臨。



### 前号・前々号訂正

1. もぐら通信第120号（第二版）を発行しました。

ダウンロードは：<https://docdro.id/2GbfXz>

訂正箇所は次の通り。

P47：5.12.1 位相史のための時代区分の分類

訂正前：歴史家を名乗る専門家

訂正後：位相史家を名乗る専門家

2. もぐら通信第121号（第二版）を発行しました。

ダウンロードは：<https://docdro.id/lw1e5iD>

訂正箇所は次の通りです。

P76：

訂正前：綱>縄>紐>緒といふ分類

訂正後：綱>縄>緒>紐といふ分類

巻頭詩  
(10)  
一つのメルヘン


中原中也

秋の夜は、はるかの彼方に、  
小石ばかりの、河原があつて、  
それに陽は、さらさらと  
さらさらと射してゐるのであります。

陽といつても、まるで珪石か何かのやうで、  
非常な個体の粉末のやうで、  
さればこそ、さらさらと  
かすかな音を立ててもゐるのでした。

さて小石の上に、今しも一つの蝶がとまり、  
淡い、それでみてくつきりとした  
影を落としてゐるのでした。

やがてその蝶がみえなくなると、いつのまにか、  
今迄流れてもみなかつた川床に、水は  
さらさらと、さらさらと流れてゐるのであります……



## 『周辺飛行』論

(32)

### 3. 『周辺飛行』について (21)

#### 次の小説のためのノートより——周辺飛行30

岩田英哉

この標題の「次の小説」とは、当初は『志願囚人』といふ題名であり最終的には落ち着いた題名の小説『方舟さくら丸』のことです。

この小説を書くためのノートのキーワードは次の如きものである。これらを眺めると、確かに核戦争の勃発を前提にした『方舟さくら丸』の要の役目を担った、いつもながらに安部公房に独特固有の形象（イメージ）であると思はれる。読み始めた途端に「既に」悪夢の世界で、これが創作とは思へぬ、夢か現（うつ）か境界不分明のノートである。

1. 緑色
2. 橋
3. 病院
4. 地下の世界
5. 戦争
6. 内部と外部
7. 猫
8. 戦争
9. 窓
10. 戦車

これらが「（前号の記事参照のこと）」と最初に指定のある「発想の種子」である。以下順番に登場する、安部公房の上記キーワードに従って「次の小説のためのノート」を読み解いてみませう。

#### 1. 緑色

緑色は、初期安部公房がリルケに学んだ特別な色なのでした。『もぐら感覚（21）：緑色』（もぐら通信第25号および第26号）より引用します。

「緑色は、安部公房の文学的な全生涯に亘って現れる色です。緑色の年譜を作成すると、次のようになります。

『旅よ』という詩（1943）：19歳

『無名詩集』にある「孤独より」という詩（1947）：23歳 『無名詩集』にある「ソ



- ドムの死（散文詩）」（1947）：23歳  
『名もなき夜のために』（1948）：24歳  
『デンドロカカリヤ』（1952）：28歳  
『鉛の卵』（1957）：33歳  
『人魚伝』（1962）：38歳  
『箱男』（1973）：49歳  
『緑色のストッキング』（1974）：50歳  
『笑う月』所収の「密会」（「周辺飛行30」）（1974）：50歳  
『密会』（小説）（1977）：53歳  
『カンガルー・ノート』（1991）：67歳

これ以外にも、まだまだ見つかるかも知れません。

一体、安部公房にとって緑色は何故そのような意義ある色であったのでしょうか。それを考察したいと思います。

まづ最初は、時間の順序を飛ばして、50歳のときに書いた『笑う月』所収の「密会」（「周辺飛行30」）という夢の記録を読みましょう（全集第25巻、30ページ）。

これをみると、冒頭から「まずJAF（日本自動車連名）発行の地図の緑色のページを開く。」と始まり、直ぐその後に、「ついさっき夢を見はじめたばかりの中年の医者」が登場して、その「医者は軟骨外科の医局長で、左の胸のポケットの縁に緑色の識別標をつけている」とあります。

このあとの話の展開からいって、この識別標とこの緑色は、夢の世界へ入って行く契機であり、またその資格を主人公に賦与する働きをしています。夢といい、従い、狂気の世界といってもよく、更に従い時間の前後も喪失した矛盾だらけの現実的な、実感のある非現実の世界の前触れを告げるのが、この緑色なのであり、またJAFの地図の緑色のページなのです。」（『もぐら感覚21：緑色』（もぐら通信第25号）

従ひ、このノートの話は「狂気の世界といってもよく、更に従い時間の前後も喪失した矛盾だらけの現実的な、実感のある非現実の世界」の話になつてゐます。そして、いつも箱男、と云ふ名前を全ての安部公房の主人公の代表として用ひますと、箱男は、橋のたもとにゐる。何故なら橋は川と交差して兩岸を接続する何かだからです。読者には『カンガルー・ノート』の最後の第七章「人さらい」に挿入されてゐる「人さらい」の詩に歌はれてゐるところです。その冒頭の三行を次のやうに引用してみると、窓もまた閉鎖空間から存在へと脱出するための出入り口なのでした。峠もまた二つの世界の上位接続する場所（topos）です。

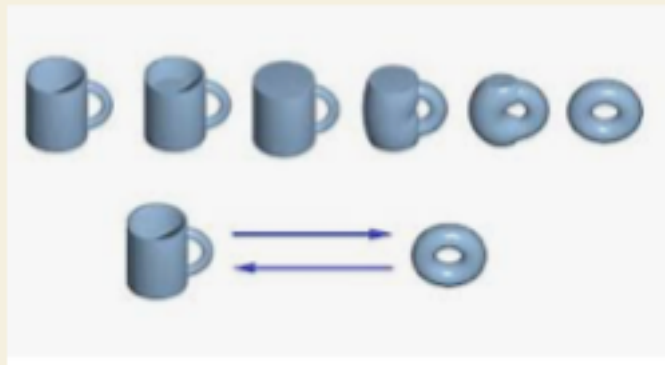
「北向きの小窓の下で  
橋のふもとで  
峠の下で」

## 2。橋

「まずJAF（日本自動車連名）発行の地図の緑色のページを開」いた後、話者は次のやうに続ける。

「斜めに見上げるように睨みながら、静かに歩きだす。睨むのは左眼で、歩くのは右眼がいい。そんな気がする。すると短い木の橋がある。だから橋を渡ると横浜だ。横浜はほぼ環状の道路群でドーナツ型に構成されており、扇子のようにおりたたみ可能な印象をもつ。」（傍線は原文傍点）

この原文傍点を附して安部公房の強調したかったことは「短い木の橋」「だから」何の時間の中での脈絡なく直接に今ある場所から横浜に接続されてゐるといふことがいひたいことなのです。「短い木の橋」とは、橋は長い必要はない、トポロジカルな（位相幾何学的な）接続は長短の問題ではないといふ意味であり、木の橋であつて鉄の橋ではないのは、トポロジーは素材に無関係であるといふ意味「だから」です。トポロジーで世の中の事物を眺めれば、あれ可笑しや、ドーナツとコーヒー・カップが同じ位相に存在してゐる、変形の中に存在してゐるが故に「だから」同じものだといふことを思ひ出して下さい。



「いま一人の医者がその橋を渡っていく。ついさっき夢を見はじめたばかりの中年の医者である。」

といふことで話は病院の話に、読者にお馴染みの『密会』の世界の話に「いつの間にか」「なつてしまつてゐる」のです。ここから、あなたは此の医者になつてしまひ、「いつの間にか」「左の胸のポケットの縁に緑色の識別標をつけている。」

かうして、あなたは時間の前後も喪失した矛盾だらけの現実的な、実感のある非現実の世界」を彷徨ふことになつてしまつて、気が付けば（気が付かなくとも）、ゐるのです。

### 3. 病院

「地下道の非常口の階段を上ると、横浜駅の待合室に出る。」と云ふのであるからには、病院は地下世界であり、地下世界に病院はある。ですから、この3の話は次の4の話と同列に裏表に接続してあるメビウスの環である。どうも医者であるあなたは「いつの間にか」「昼休を利用して、同僚の女医と密会の約束をしてあったのである。」

「駅のトイレでは、掃除婦たちに邪魔される」のは、駅も交通体系の接続点（ターミナル）であり、便所もまた生と死の接続点であるからです。また、安部公房にとって小便も大便も排泄物であり廃棄物であるならば、これを排泄する人間もまた同類だといふのです。これが『箱男』に挿入されてある「男子便所」「大阪の万国博覧会に家族と来た車椅子に乗る身体障害者の少女」「トラックの廃棄場」などの一連の写真の主題である。

これら挿入写真の一枚に「宝籤売り場の前にしゃがんでゐるヤクザ」が何故存在であるのかは、この売り場が夜明け前に一日の幕の開く前の未明の時間に、そして此の宝籤売り場が二つの自動車の間（隙間）に挟まれて見える位置に置かれてゐるからであり、即ち安部公房の云ふ存在の交差点にあつて、従ひ、ヤクザが宝籤売り場の前にゐるのではなく、この交差点に立てば、その人間は法律の外のアウトロー即ちヤクザに変形するからである。同様に次の文章が続くが、これは未明であり昼間であるので、「花札賭博」の屋台が、折角タクシーの運転手相手の溜まり場であつても、存在の交差点にはならないからです。

「駅裏にタクシーの運転手相手の屋台のたまりがあり、昼間はほとんど人気がないはずなのだが、あいにく今日にかぎって花札賭博の開帳中だった。」

「銀行の玄関脇も、三時をまわってくれなければ利用しにくい」のは、三時と云ふ時間が『箱男』の最後から二つ目の章《そして開幕のベルも聞かずに劇は終わった》の最後の詩にあるやうに、日常の時間に風化しないのが「減り方も半分ですむ」「2の字あたり」の時計の文字盤の数字だからです。「三時をまわ」れば、夕方がやつて来て、あの『赤い繭』の餓えた若者の場所が生まれるからであり、また「銀行の玄関脇」に駐車場のあるのは『カンガルー・ノート』の「満願駐車場」と同じで駐車場は母屋に対するに二次的・二義的な場所であつて、トポロジーにとっては本質的な位置にあるからです。即ち「三時をまわってくれなければ」（時間）、このノートの「満願駐車場」（空間）と一緒にあつて存在の交差点が誕生しない。

ここから先は公房好みのトポジカルなイメージ（形象）の連続です。「アパートの非常階段下」「休憩中のセールスマン」「密会場所」、「ちょうど会食中の」「彼をのぞく、医局の全員」、ホテルの「回転ドア」「軟骨料理の特別メニュー」、近道として通り抜ける「ホテル」「軟骨萎縮症」「黒革の往診鞆」「大型の封筒」「裏口」「環状道路」

#### 4. 地下の世界

以上の1から3は「いつの間にか」地下世界でもあるやうだが、そんな世界で戦車が走り、「いつの間にか」戦争が始まつてゐる。確かにノートの予定してゐる次の小説『方舟さくら丸』の世界に通じてゐる。これから書かれる小説では、戦争の劇の《開幕五分前》の洞窟の世界が舞台であつて、そこが違ふが。即ち、この「次の小説のためのノート」は、『方舟さくら丸』にとつての「明日の新聞」になつてゐる。

#### 5. 戦争

戦争の到来は戦車によつて示される。

「二階建の家ほどもある巨大な戦車が、砲塔をまわしながら、どこか向うの方を射ちつづけている。砲塔には米軍のマークがついていた。」

そして、明日の新聞が、この文の後に、前後の脈絡なく、配達されてゐる。

#### 6. 明日の新聞

「と、どういうわけか、この事件に関する翌日の新聞記事の内容を、はっきり思い浮べることが出来たのだ。」

#### 7. 内部と外部

主人公は戦車を逃れて環状線の道路の内側に入る。このドーナツ型の環状線の外部から内部へと入ると主人公の感じる性衝動の増進は興味深い生理的事実です。そこは境界域であり、外部から内部へと入つた時であり、そこに「鉢巻をして、抜身の日本刀をふりかざした壮士風の男たちが、路地から路地へと駆けまわつてい」て、医者主人公が男たちと反対の方向に走るように努力するとさうなることは興味深い。

そして、話の最後には殺される運命にある猫が登場するが、どうやら殺されずに済んでゐるやうである。

#### 8. 猫

主人公が男たちと反対の方向に走つて「さらに人気のなさそうな狭い路地を選んで入りこむ。薄汚い片眼の猫が、道幅いっぱい寝そべつていた。あやうく蹴殺しかけたが、娘の猫のような気がして思いとどまった。」この娘は冒頭で主人公が橋を渡つて「ついさっき夢を見はじめたばかり」のところから後をついて来てゐて、その間姿を隠してゐて、「今日、三度目の退院をする予定の患者」であり「軟骨の三分の一がプラスチックと特殊合金で補填ずみ」の少女である。『密会』ならば溶骨症の少女、『カンガルー・ノート』ならば垂れ目の少女です。性の未分化の、ニュートラル（中性）の存在です。

「急な階段を登りつめると、うまい具合に娘の家だった。」玄関を開けると「薄暗い廊下に」骨の変形した「ひどく奇怪な動物たち」をみた後、「いつの間にか」二人はとある部屋の中にある。「窓の下に廻廊があり、そこをさっき別れたばかりの医局の連中が、ちょうど食後の散歩といった感じで、こちらにやって来るつもりらしいのだ。」

### 9。戦争

「娘の家が、ホテルの一部だったのだろうか。逆にホテルが娘の部屋の一部だったのだろうか。医者は自分の無知がいまいました。（略）

医者はとっさに窓から廻廊に飛び下りていた。」

「廻廊にそって鉄道が走っており、戦車は貨物列車で搬ばれているのだった。」

### 10。窓

またもや窓。「医者はとっさに窓から廻廊に飛び下りていた」その廻廊が戦場となつた環状線の内部である。娘もまた「彼をのぞく、医局の全員」と「ぐる」ではないといふことに確信がないので、「娘の窓に殺到して行く」医局員から娘を助けようとはせずに、反対方向に逃げ出す。これは、『第四間氷期』の終局で自分の指揮してゐた研究グループの部下たちが皆敵対組織のメンバーだつたといふのと同じ、事の顛末である。さうなると一番信用できる人間は、いや、物は何かといへば、それが戦車であり、戦車に乗る軍人である。

### 11。戦車

「砲塔の自衛隊員に呼びかける。

「連れて行ってくれ。」

自衛隊員が聞き返す。

「志願するのかい。」

「うん、志願だよ。志願するよ。」」

そして、戦車の中はまた閉鎖空間であり、そこは性的なイメージ（形象）に満ちてゐる。

軍隊—制服—閉鎖空間（戦車）—性愛（エロス）

といふ概念連鎖は、安部公房の読者には納得のいく事ではないでせうか。

「戦車の中は、ひんやりと鉄臭かった。足もとにうずくまった誰かが、ズボンの股に手をのぼし、ファスナーをまさぐりはじめる。」

そして、全集には此の「周辺飛行30」の次に「ドナルド・キーン宛書簡 第15信」

(1974.4.14) が載つてゐる。安部公房らしい、その超越論的な第一行を。

「前略 これは、先月中に書く予定の手紙です。」

この一行を見ると、ドナルド・キーンとは本当に心が通じたのだと思ひます。三島由紀夫の次に。友情の優劣の問題ではなく。

『砂漠の思想』を読む

(9)

I ヘテロの構造

「ヘビについて I」

岩田英哉

このヘビ論は、1953年の1月30日の日付で発表されたものです。これが正月に書いたものであることは、エッセイの一番最後のオチに、蛇といふ脚のない動物に「さて、足もついたし、これでなんとかヘビ年を飾る文章ができたというものである。」とある一行を締めてあることから、全集第30巻で検索しなくとも、判ります。おまけに安部公房らしいことに、これが此のエッセイでは最初の一行にではなく最後の一行に「——あるヘビ年に——」とまで上の「足もついた」後に駄目押しのやうに付記してある。これは蛇が我が尻尾を頭で啜へてメビウスの環にしたといふ作者の意志の現れであらうか。

と思つて中身を読み始めると、これが果たして蛇のやうにクネクネして曲りくねった文章であり、いつまで経つてもカフカの『城』の主人公の測量技師ヨーゼフ・Kの如く、正月早々から目的地に、つまりヘビの話に辿りつかないのである。私は嫌な予感がした。さう、ひよつとしたら、蛇とはまたもや砂漠なのではあるまいか？確かに蛇は砂漠だ。何故なら砂漠の砂と同様の可塑性が、その形態と位相の変形に於いて、あるからだ。そして、私の予感は当たった。それは何故かといふと、文章を書きながら安部公房も此れに気付いたので、長い第二段落の終はつた後に次の一行で第三段落を始めてあるからです。

「 という具合に考えてきたものの、こなすどころか、まさしくヘビ的文章の見本になり、このまま行けばますます混乱するのは必至である。気取りはよして、ズバリとヘビの本質にせまる、科学的方法を採用したほうが得策ではないか。(略)ヘビの不気味さなどと言いながら、要するに私はヘビそのものについてはなるべくふれないようにして、ヘビという言葉を追いまわしていたにすぎないのだ。」

要するに、安部公房は、実は蛇が大好きなのである。

判るのは、このことだけで、これで十分ではないか。しかし、もう少し言葉を続けて、何故安部公房は蛇が好きなのかといふことを作家の言葉を拾ひながら、蛇の道を進んでみよう。蛇の道が一体如何なる何のミチに変形するものか。

安部公房の蛇を論じたいといふ欲求の原因：

(1) 「ヘビから神秘のヴェールをはがしてしまいたい。」

(2) 「ヘビの不気味さは、たしかに猛獣の物理的恐怖に比して、すこぶる生理的だといふことが言えるだろう。」

(3) 「ヘビの生理的な不気味さは、決して視覚的なアナロジーだけにとめるべきではなく、かえって人間の中に残っている原始的な部分、すなわち物神崇拝の不合理な、レ

ヴィ・ブリュルの言葉を借りればプレ・ロジックの部分に求められるべきかもしれない。あるいはさらにさかのぼって、人間以前の時代の生活形態、多分そろそろ不自由になりはじめた半樹上生活時代にもとめるべきだろうか」

ここまで来て、安部公房は、

「……タバコを二本、しばらく間をおいて、よしと私は独白する。」

即ち、安部公房にとつてのタバコとは、「……」といふ例によつて例の如く沈黙の間を置くための手段であり、心の中の小部屋〔註1〕で独白するための喫煙であるのだといふことが判ります。ですから、これもまた他に書いてある「タバコをやめる方法」といふエッセイを文字通りに真に受けては禁煙などできず、断煙などできよう筈がないのである。きつと「タバコをやめる方法」にも蛇が「ヘテロの構造」の中に/を以て、「ヌラヌラ」とのみならず、いふにいはれぬ「ヘビの神秘」があるに違ひない。蛇の神秘とはメビウスの環である。さう、やはり「タバコをやめる方法」の最後には「(略)人間の行動がその細部にいたるまで、いかに言語によつて構築され支配されているかを体験するいい機会になるはずだ。(略)ただ一つ欠点をあげれば、あまり簡単に禁煙が出来るので、またすぐに吸いはじめてしまうことだ。告白すればこの原稿を書きながら、すでに数本分を灰にしてしまった。」と書いてあつた(全集第28巻、281ページ)

安部公房のいふヘテロはホモであり、ホモはヘテロである。要するに咬尾に、それも一捻りしてから自らの尾を頭で咬む伸縮自在の蛇、これが安部公房の蛇の形象(イメージ)です。

〔註1〕

安部公房の心の部屋について

結局、安部公房の叙述する死刑囚は一体何をしてゐる人間かと云へば、それは自分の死、即ち時間の終りが決定的である状態に今自分がゐることを承知の上で、その時間を空間化することである。時間の変化を空間的な関係の変化、即ち函数関係に変形することです。これが「人間が人間であることを証明するため」になすべきことであり、これがニュートラルな行為の在り方なのであり、ニュートラルとは「一種の合言葉であり、どんな他者の心の扉でも自由に通過できる〔註A〕、パスポートなのである。」何故なら「ミクロの世界では、空間的なものに翻訳されなにかぎり、時間は無いにひとしいのである」から。安部公房はリルケのやうに小さいものを愛する。

「小さなものを見つめていると、生きていてもいいと思う。

雨のしずく……濡れてちぢんだ革の手袋……

大きすぎるものを眺めていると、死んでしまいたくなる。

国会議事堂だとか、世界地図だとか……」

(『箱男』全集第24巻、109ページ)

〔註A〕



## [註A]

ニュートラルとは「一種の合言葉であり、どんな他者の心の扉でも自由に通過できる」空間を、19歳の安部公房は「心の部屋」と呼んだ。成城高校時代に親しく哲学談義を交はした友中笠肇宛の手紙を引用する。この時中笠肇は京都大学哲学科に入学のため京都にゐる。当時の成城高校の文学と哲学の会を安部公房は主催してゐて、中笠肇も仲間の一人であつたのでせう、次の引用の中で「僕達の心」と一人称複数形で呼んでゐるのが、その事です。

「中笠君、どうかどんな時にでも僕達の心が君の心に接してある事を想出して下さい。君がどんなに苦しく想つても、どんなに苦しく想つても、君の心の部屋のほんの角つこに、小さく君をみつめて居る眼のある事を忘れないで下さい。そして時々はその部屋の中で深呼吸する事。其の中で僕達は永遠に語り合ふ事も出来るのぢやないでせうか。」

(全集第1巻、79ページ下段)

そして、ここで「タバコをやめる方法」中身に立ち入つて読んでみると、この方法は心理的言語療法であり[註2]、してみれば、この「ヘビについてI」の収められてゐる全体の章の題名の『ヘテロの構造』とは、安部公房の認識論に基づくヘテロ・ホモといふ倒錯・逆転・倒立・reversal関係を根源的に備へてゐる言語構造のことなのです。私たちには「終りし道の標べに」といふ処女作の名前で親しい論理です。道の終りに更に道を指示する標べが立つてゐるのか？立つてゐるのです。そこが新たな出発地点であるからです。トポロジーの世界です。

## [註2]

「ある時ぼくは、この奇妙な[引用者：喫煙に関する]耽溺の正体を知ろうとして、タバコを吸いたくなつたときの心理状態や、吸っている最中の感覚を、じっくり内省的に観察してみたことがある。そしてこれは薬物を吸っているのではなく、時間を吸っているらしいことに気付いたのだ。もしくは時間を変質するところみと言つてもいいかもしれない。」(全集第28巻、279ページ)

さて、結局安部公房の至つた答へ、即ち蛇の不気味さに関する解答は次の発言になるのです。常識と非常識、内部と外部、安定と恐慌、標準的な形態と異常な形態、神秘性と常識系の混乱、これら二項対立の第三項として蛇は存在してゐる。とすれば、太古・古代以来何故私たちは蛇を信仰してゐるのかの、以下は合理的な(ここが安部公房らしい)説明になつてゐます。勿論、蛇の与へる不気味さと「不合理な恐怖心」が「すこぶる生理的だ」から、安部公房は蛇に惹かれるのです。この生理感覚なくして、安部公房は蛇を新年早々巳年に蛇を論ずることはしなかつたでせう。この第三項を求めることを、22歳の論文『詩と詩人(意識と無意識)』以来変はらずに「肉体意識に常識系の部屋を出ることを要求しはじめたとき、意識の革命がおこる。」と書いてゐます。勿論、22歳の論文はマルクス主義の革命を起こすために書いたのではなく、その理論は実に内省的な超越論ですから、むしろマルクス主義の否定ですし、この蛇論と同じく核心にあるのは夜と沈黙・余白「……」であるのです。この「革命性」を「本来人間にそなわつた機能」と呼んでゐる。言語機能といふ意味です。

そして、ほぼ終盤に筆を運んで来て、やはり引用するのはリッチ・コールダー監督の『砂漠と闘う人々』といふ映画であり、人間の持つ常識系に作用する「ヘビの常識系への作用」を暗示する話として、なるほど、ヘビは砂漠であるといふ映画に言及しながら前段落に要約した二項対立の解決を述べてゐる。トポロジカル（位相幾何学的な）超越論です。

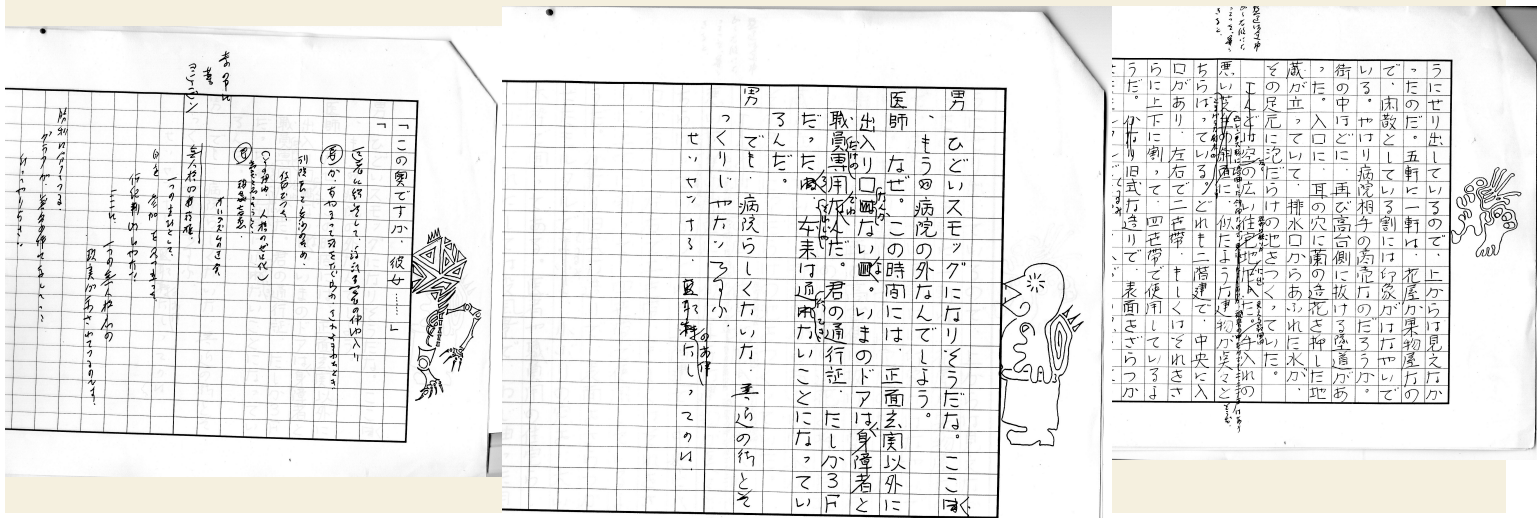
最後に安部公房の此の立場から、当時流行の平和論を常識系の虚構だとして、これを毀（こぼ）つ数行を残してゐる。勿論、今の激動の時代の転換点にあつて、千代に八千代に苔むすまでに衰弱した平和論に死の一撃を与へ得る論理です。安部公房は今も生きてゐる。何故なら常識系の平和論とは大衆化し通俗化した共産主義に他ならないからです。

「……私は最近の平和論の弱点として、その常識性を痛感する。常識系は本来その性格として、保守的なものであり、たとえ人間が本来平和を愛するものであるにしても、それが常識的な平和論である限り、たちまち変質してしまうことは必至である。なぜなら平和論は常識系の上にこそ安定するものだから、平和に徹することは、同時に平和の砂漠性の認識に徹することでもあるのではあるまいか。さて、足もついたし、これでなんとかヘビ年を飾る文章ができたというものである。

——あるヘビ年に——

しかし、この後に「ヘビについて II」「ヘビについて III」を書き継いでゐるからには、安部公房は依然として「ヘビについて I」に満足してゐないのである。思へば此の追加的記述は『箱男』の『終りし道の標べに』の最後の章「十三枚の紙に書かれた追録」や『箱男』の最後の章「《……………》」に似てゐる。これら後二つの同名の文章は「余白に書かれた落書き」といふことなのでせう。

『密会』の原稿の余白に書かれた安部公房の幾何学的な落書（『安部公房の落書き』もぐら通信第63号から第65号より）



追記：

この「ヘビについて」と題した三編の後に安部公房の配列した作品が「死人登場」「死人再登場」であり、これは戯曲『制服』『幽霊』『快速船』など「実在しないもの」に関するエッセイであつて、またその次のエッセイが「SFの流行について」であれば、この第一章「I ヘテロの構造」に収められた作品は皆、最後の「ミラーとの手紙」に加えて付加的に「種のない話」の総題の元に雑多に集められた小嘶群も含めて、「仮説設定の文学」の主題のもとに集められた文章だと云つて良いので、ここまで理解ができれば、もはや『砂漠の思想』を一々細かく読み解く必要はないと思ふので、次回からは他のエッセイ集に転じたい。

ちなみに第三章は「III 一事が万事」といふ総題で、これは部分が全体といふ意味であり、「特殊の中の普遍」といふ〔註3〕、これもトポロジーの主題ですから、結局三つの大きな章を貫くものは何かといへば、それは砂漠であり、「砂漠の思想」であるといふ結論に達して、安部公房が「あとがき」に記したやうに「内容本位に並べ替えてみた」といふ言葉は正しく、三つの章の配列は、何を題材にするかはそれぞれではあつても、実際書かれた内容はそのやうになつてゐる。

「どの文章にも、それぞれ隠し絵のように、行間のどこかに磁石の針がかくされていて、注意してみると、その方向が、つねにどこか一点を指していることに気づかされるのだ。」と作家の云ふ磁石の針を私たちは見つけた以上、もはや「砂漠の思想」に留まることは無用であり、砂漠の外のエッセイ集へと歩を進めたいのであるが、「あとがき」の最後から二行の文を読むと、これがまた、さういへばあれもこれも砂漠といへばみな砂漠であり、ヘビといへばみなヘビであり、紐だといへばみな紐であり、幽霊といへばみな幽霊であり、かうなつて来ると遂にはやはりS・カルマ氏の変身は正しい結論なのだと思はれるのである。

「砂漠には、道がないという者もいるが、目には見えなくても、ちゃんと道は存在しているのだという者もいる。おそらくその両方ともが、正しい説に相違ない。」

最後に安部公房の刊行した全ての評論集の列挙に第一回目『笑う月』が漏れてゐたので、改めて以下の名前を挙げて修正をしたい。

- 1。1957：猛獣の心に計算機の手を
- 2。1965：砂漠の思想
- 3。1971：内なる辺境
- 4。1975：笑う月（これは「周辺飛行」44篇より16篇を選び収めたもの）
- 5。1991：死に急ぐ鯨たち

『笑う月』論は『周辺飛行』論に含まれるので、ほかの三つのエッセイを次に論ずる。

〔註3〕

特殊の中の普遍について。これについては、次の三つのエッセイがある。

- (1) 安部公房の札幌文学への批判（もぐら通信第62号）
- (2) 周辺思考：第21巻、336ページ
- (3) 独創と普遍：第22巻、229ページ

「また、安部公房は後年1985年、61歳になつても首尾一貫して『子午線上の綱渡り』と題したコリーヌ・プレのインタビューで次のように、同じ文学観を日本文学と世界文学に関する自分自身の位置として語っています。（全集第28巻、104～105ページ）。

「―― 安部さんは処女作『終りし道の標べに』から、すでに日本の伝統を拒絶しているように見えます。日本、もしくは世界文学の流れのなかで、自作をどのように位置づけているのですか？

安部 その返事も誰か他人に任せましょう。僕も解答をぜひ聞かせてほしい。ただ言えることは、僕は日本語でしか考えることが出来ないということ。日本のなかで、日本語で考え、日本語で書いている。しかし日本以外にも読者がいるということは、現代が地域性を超えて、同時代化しているせいではないか。その点、言語の特殊性と普遍性についてのチョムスキーの考え方に同意せざるを得ません。すべての個別文法の底に、遺伝子レベルの深さで地下水のように普遍文法が流れているという考え方です。僕が拒絶したのは日本の伝統ではなく、あらゆる地域主義的な思想の現象に対してなのです。」（全集第28巻、104～105ページ）。

更に、ドナルド・キーンとの対談『反劇的人間』の「第四章 文学の普遍性」に特殊と普遍に関する対話がある（『反劇的人間』全集第24巻、277ページ～179ページ上段）」

## 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック

## (4)

## 塔の文学

岩田英哉

## 目次

## 塔の文学

1. 森鷗外の塔と夏目漱石の塔
2. 江藤淳の塔と三島由紀夫の塔
  - 2.1 三島由紀夫の詩篇『凶ごと』と二人の塔の共通の名前
3. 三島由紀夫の塔と安部公房の塔
  - 3.1 三島由紀夫の塔
  - 3.2 三島由紀夫の十代の詩を読み解く 27：二人の理髪師
  - 3.3 安部公房の塔
4. 安部公房の塔と小林秀雄の塔

\*\*\*

**3.3 安部公房の塔**

安部公房の塔は、20歳の時にエッセイ『没落の書』にて自ら名付けた「概念の古塔」または「概念の塔」である。

20歳の安部公房は次の散文詩を残してゐる（全集第1巻、141～143ページ）。もし題名をつけるならば、「概念の古塔」といふ名前でありませう。これは『没落の書』の後半の全体をなすものです。これが散文詩であるならば、安部公房のエッセイはみな散文詩だといふわたしの意味もお解り戴けることとせう。それ故に、安部公房のエッセイは奇妙に人を惹きつけるが、しかし結局よく解らないといふ印象を与へるものになつてゐる。それは、散文ではなく、詩文、それも散文的な性格の濃厚な、しかし詩文だからです。

「概念の古塔はあまりにも大きく高い為、其処をはるかに離れて見なければ其の全貌を見はるかす事は出来ない。そしてそれは、もっともっと大きな急傾斜の山の頂上にそびえ立って居る。人影の無い恐怖に満ち満ちた古塔である。

(略)

[この間、山の麓に住む人たちの中から数人の選ばれた人たちが山頂の古塔を目指すが、道は険しく、迷路のやうで辿り着けない。それでもやつと辿り着き古塔の壁に一人の英雄が山頂を極めて山を降ったが、降りることもまた難事であり、続く人はみななかつたといふ話が語られてゐる。これが難事であるのは、初期安部公房を理解する鍵語（キーワード）「自己証認」をこれらの人が、古塔との関係で出来ないからである[註1]。即ち、概念

の古塔の中に入り、その中を知ることは「自己証認」のために必要なのである。これは後年の芥川受賞作『壁』所収の「バベルの塔の狸」を思はせ、「概念の古塔」は間違いなく此の作品の先蹤である。さて、]

「けれどやがてこんな迷路にも終止符を打つ可き時が来た。或る月夜だった。わたしは不思議な力を得て天空を飛翔した。そしてあの概念の古塔の上へとやって来た。月は太陽の様に輝き渡って、総てを私の前にてらし出した。私は総てを見た。塔も、塔の中も、山も、麓も町々も、又火をはいて居る自己証認も。皆が月の光に、白く浮んで居た。……塔の中は完全な空虚——無だった。そして深いがけだった。きり立った丸い谷間だった。其の底に、私は流れを見た。それは歌い、且つ笑って居た。そして黄金色に光って居た。そして私は総てを理解した。やがて私は没落をした。私は人々に向かって叫んだ。私達の為し得る事は、又為す可き事は、如何にして山を下りるを得るやと云う問題の解決にあるのだ。そして私自身も没落を試みた。第二の没落を。〔註2〕」（傍線は原文傍点）

[註1]

「自己証認」とは、十代の安部公房が問題として、今風にいへばidentity（自己同一性）証明の問題です。此れを、この少年は（といふべき年齢の時以前からの問題なのですが）、自己承認とか自己証認といふ用字で言ひ表してあります。これは、安部公房が自己認識をする、即ち言語原理にしたがつて、私は私である、と断言するために必要な枠組みである部屋—窓—反照—自己証認といふ四つの要素からなる並行四辺形のトポロジーの宇宙なのです。部屋—窓—反照が揃って自己証認が為される。部屋とは閉鎖空間であり、安部公房の部屋には扉（ドア）はなく、窓から出入りをするのです。小学生の安部公房は二階の部屋の出入りを、いつもではないにせよ、友達と二階の窓からしてゐた。窓は存在へと脱出するための穴であり、反照とは部屋の中にゐて外界を眺めて自己の眼に映る現実のことです。これは、御納戸にゐて夕暮れを待つ三島由紀夫と江藤淳の世界に通じてゐる。ただし、安部公房の部屋は二階にあつて一階ではないといふ違ひがありますけれども。

[註2]

この山上からの没落はニーチェのツアラトウストウラの姿を模したものです。安部公房はリルケの他にニーチェを没頭して読みました。しかし此の少年は模倣ではなく、その思想の本質を全身で浴びて自分のものと成しました。当時の哲学談義を交はした親しき友中埜肇宛書簡から：

「いつだつたか、君と話し合つた夜、例の問題下降の行づまりとして、要するに、人間の眞理、存在への方向、云ひ代へれば開示性の巧みな曲げ方が、ある人に歴史的価値、偉大さを与へたのだ」と云ふ結論が得られた事を憶へて居て下さるでせうね。つまり、例のあの崖へ行く前に、途を変へなければならぬのです。けれど、その上へ行つて終つた以上は。……僕達には唯だ没落があるのみです。概念より生への没落。僕はやつと、その途を発見し、それを他の曲げ方と、色々比較して見る事が出来る程になりました。最も完全な曲げ方〔引用者：トポロジーのことです〕、……結局問題は其處にあるのだ、と僕達は話し合ひましたね。そしてやつと、其の曲げ方に行く可き小路を見つけ出せた様な気がして居ます。」（『中埜肇宛書簡第3信』全集第1巻、72ページ上段）

「Untergang [引用者：没落の意味] は、今や僕の魂の中で、激しい試練を受け乍ら、苦しみがき、或は強烈な大歓喜に身を慄かせて居ます。死ぬ時と同じ様に、生まれる時にもしなければならぬと云ふ、あの苦悶なのでせう。諸々のDingeの中に、ひそかに満ち満ちて居るあの生の流れに、やがて身を投げ入れる為に。

僕は当分の間、やがてそれ等を超克せんが為に、もつともつと深くリルケとニーチェとの中に、総てを沈めて行くつもりで居ます。」

(『中壘肇宛書簡 第3信』全集第1巻、72ページ下段)

上記赤字にした箇所は、安部公房の存在の凹の形象(隙間・余白)であり、最後にある下線部の一行は、これが「問題下降による肯定の批判」のための「問題下降」といふ問題だからなのです[註3]。普通の人には山頂に登ることを心がけるが、安部公房は全く正反対で、山には「既にして」登り終はつてゐるので、登り終はつてゐるところから話を始めるのです。劇場の幕の上がる前に登山といふ劇は終はつてゐるとは、このことです。これを超越論といふ事は諸所既述の通りです。

[註3]

「問題下降」の問題は18歳の論文『問題下降に依る肯定の批判』にトポロジーの都市の建設の問題として、また後年の安部公房スタジオの演技論の中核概念ニュートラルの生理的感覚を通じて現実を捉へる方法論の問題としても詳細に論ぜられてゐます(全集第1巻、11ページ)。

安部公房の「概念の塔」で本質的なことは、塔の内部は全くの空虚であつて、これが自然の生命の横溢する姿であると、空を飛翔する詩人の眼によつて、描かれてゐることです。これが、安部公房の「概念の古塔」といふ塔です。三島由紀夫の読者に於かれては、F104ジェット戦闘機に搭乗して空を飛び、地球を圍繞する「巨きな巨きな大蛇の環」、メビウスの環を成して「すべての対極性を、われと吾が尾を噛みつづけることによつて鎮める蛇」を觀た三島由紀夫を想像してもらひたい[註A]。

生命の横溢せる無を、三島由紀夫と安部公房は共有してゐた。

ここに至つて、さて、この二人の共有する無といふ生命の横溢せるメビウスの環の巻かれた塔を、「詩人の塔」と呼ぶことにします。

[註A]

『太陽と鉄』所収「エピロオグ——F104」の冒頭をご覧下さい。

ネット・メディア論  
(10)

岩田英哉

目次

- 0. はじめに
- 1. 国家とは何か
- 2. 用語の定義
- 3. メディアとは何か
  - 3.1 マス・メディアとは何か (20世紀)
  - 3.2 ネット・メディアとは何か (21世紀)
- 4. ネット・モノダ論
- 5. 公私とは何か
- 6. 二階層戦争論とメディア論の関係
  - 6.1 ネット・メディアの問題を二階層戦争論で考察する
  - 6.2 ネット・ヘゲモニー問題とは何か
  - 6.3 二階層戦争論による解決策
  - 6.4 空気とは何か
    - 6.4.1 空気の定義
    - 6.4.2 オロチXの定義
    - 6.4.3 同調圧力とconformityと空気の関係
  - 6.5 何故民主主義は共産主義であるのか
- 7. 政治形態と自由
  - 7.1 政治形態とは何か
  - 7.2 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い
  - 7.3 公私の最小単位再説
  - 7.4 政治形態E&Aの公私：一神教のtopologyの政治形態
  - 7.5 政治形態Jの公私：高天原のtopology (超越論) の政治形態
- 8. 経済形態と自由
  - 8.1 経済形態とは何か
  - 8.2 資本主義と政治形態Jを如何に一つにするか
  - 8.3 ネット・メディアの役割
- 9. 私たちは如何に生きるべきか
  - 9.1 学歴無用論：盛田昭夫著『学歴無用論』
  - 9.2 学問有用論：福沢諭吉著『学問のすすめ』
  - 9.3 グローカリストとしての千利休 (令和時代の人間像)

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章

\*\*\*\*\*



## 6.5 何故民主主義は共産主義であるのか

何故この政治的な問を立てねば、メディアを論ずることができないかといへば、それはメディア（媒体）とは、既に定義したやうに、たとへその働きと効果が見かけ上の一時的なものであるにせよ、国家と個人の意思疎通を図ることのできる一義的には言葉により（ラジオ）、二番目には言葉に加えて映像（写真・動画）による媒体であるからです。それに場合によつては、情動的に効果を高めるために、これで果たして本当に報道者の意図が伝はるか如何かは別にして、音楽が利用される。かくして、藝術なるものはみな、メディア（媒体）の問題として眺めれば、政治に利用される道具となる。

これが、その国の政治が如何に民主主義制度の上になりたつてゐても、メディアの理由によつて、常に民主主義が共産主義的になる理由です。再度民主主義と共産主義の定義を並べるので、徹底的に比較考量されたい。

### 民主主義の定義

民主主義とは、資本主義と裏腹の関係にある政治の仕組みであつて、近代ヨーロッパ白人種キリスト教徒中産階級が生み出した、キリスト教の唯一絶対神を否定するかまたは此の宗教的な絶対支配者の支配から離れて、従ひ、自由に人間の個人同士の社会的な契約関係に拠つて「近代国家構造模型図」の二層目と三層目で自分たちの自治によつて政治を執行することを考へた政治体制である。

しかし根底はキリスト教の一神教のトポロジーであるので、広義には共産主義の一種である。即ち、三権分立を「近代国家構造模型図」の権力1の一層目に据ゑた共産主義である。要するに民主主義は共産主義である。100人の社会で一人だけに権力が集中すれば其れは独裁政治と呼ばれ、狭義の共産主義となり、51人の過半数で政治を行ふと其れは広義の共産主義、即ち民主主義と呼ばれる。このことあるにも拘らず、三権分立を国家的自由の根拠として、狭義の共産主義の計画経済に対して、この広義の共産主義の経済を此の理由で自由経済と呼び、これが主義になつた場合には自由主義の経済と呼ばれる経済を行ふ。

### 共産主義の定義2（独立・解放建国視点）

共産主義とは、それまでの歴史を全く否定して、ある日突然国が建国されたといふ考へ方である（これを以後「共産主義的建国」と呼ぶことにする）。

〔補足説明〕 共産主義1の定義の〔補足説明〕に記述した大衆化し通俗化した共産主義は、皆此の考へ方に拠つてゐる。即ち、如何に私利私欲を公のものに見せかけて、立法化し、自分以外の人間を絶対的に支配したいといふ欲望によるものである。しかし、この欲望の由来を仔細に見れば、自分自身の死に対する恐怖が其の動機になつてゐること

が判る。

死生観、即ち公共の道徳の無い人間の弱点が此れであり、マス・プロパガンダは、大衆の此の弱点に働きかけることを専らとする。共産主義的建国といふ歴史の捏造は、何故捏造かと云へば歴史は時間として連綿と連続してゐるからであるが、この手の国家の、国の成り立ちに起因する論理的に強制された、即ちイデオロギーとなつてしまつた国家起源説に起因する結末の一つである。（略）」

順序は逆になるが、ここで共産主義の定義1を掲げると歴史的視点からの理解が一層進むであらう。

#### 共産主義の定義1（近代歴史視点）

共産主義とは、狭義には、近代の19世紀及び20世紀にあつて、資本主義が余りに行き過ぎて貧富の差異が激しくなり、また民主主義が此の問題を即座に解決できないがために、19世紀にカール・マルクスが唱へた急進的な解決を暴力によつて求め実現しようと図つた政治及び経済の理論であり、20世紀に特にロシア革命（1917）以降に世界中で猖獗を極め、通俗的にも流行した理論のことである。共産主義は一神教の時間の信奉者であるので、計画経済を行ふ。

〔補足説明〕この理論は、ソヴィエト連邦の崩壊（1991）後も、欧米でも日本でも失敗の原因分析がなされることなく、今日にいたつてゐるがために、殊にフランクフルト学派の活動を通じてアメリカでフロイトの個人に関する精神分析学と結びつき、またプロパガンダの方法論と結びつき、共に通俗化して、アメリカの大衆心理に深く入り込み、political correctnessを代表的な例として、関連するフェミニズムなどの極端な主張が社会的な問題と軋轢を引き起こす原因となつてゐる。これが広義の共産主義である。

この通俗化した広義の共産主義の危険であることは、範疇の意図的な混同によつて人心を情緒的感情的に扇動し、大衆のみならず政治家を同様の影響下に置いて、共産主義的な意図の関係する法律の制定に至らしめることによつて、共産主義の本性の露わになつた全体主義ファシズムといふべき共産主義社会を、フランス革命時の標語だと云はれてゐる自由・平等・博愛、ヒューマニズム、男女平等などその他の美辞麗句の甘言を弄して人間を情緒的感情的に扇動し、大衆のみならず政治家を同様の偽善の影響下に置いて、共産主義的な意図の関係する法律の制定に至らしめることによつて、共産主義の本性の露わになつた全体主義・ファシズムといふべき共産主義社会を出現せしめてゐることである。本家アメリカのみならず、ヨーロッパ、日本も此の通俗化し、従ひ依然として20世紀のまま旧態依然に大衆化した共産主義に侵されてゐることが問題である。何故これが問題ある現状になるかと云へば、1989年にベルリンの壁が崩壊した後に生まれた世代が、実際の共産主義の恐ろしさを知らないからである。21世紀の今も隣に

中国共産党あるにも拘らず、政治家は其の使命を放棄し、共産主義の恐ろしさを国民に語らない。かくなる上にアメリカから無批判に流入するpolitical correctnessその他通俗化したマルクス主義による民主主義の手続きを踏んだ法制化と、法制化による言論統制の恐ろしさは其の一例に過ぎない。勿論、悪例である。

以上の定義から、日本のメディア（媒体）に仕事をしてゐる人間たちに課せられた問題、即ち解くべき課題は次のものである。

### （１）宗教と政治制度の問題の解決

日本の国はキリスト教とは無関係の国であるので、そのやうな国家として、メディアの立場から、一体如何なるメディアの在り方が理想的であるのか、そのあるべき姿を研究し、これを具現化する方策を、アメリカ人から学んだ用語を使へば戦略的に執り行ふこと。日々一日単位の時間の区切りで仕事をするに忙しいジャーナリスト・新聞記者・その他の種類の職業人に此れを考へ抜くことは難しいことは承知の上で、この課題を解くべきである。これは政治家に良い影響を与へる。SNSに関する問題は（１．１）として後述する。

### （２）資本主義と政治制度の問題の解決

18世紀の高度資本主義経済の確立した江戸時代以来を現代と呼ぶことができるので（『縄文紀元論』）、この視点から物事を眺めた場合に、資本主義は欧米流の歴史を担つた民主主義を全く必要としないといふ理由から、日本の国に相応しい政治制度のあり方を考へること。これは各領域の専門家の叢智を結集すべきことであり、一人の天才に頼ると（海外で評判を取らぬ限り）国内では大体が理解されない我が国の悪弊であるので、鳩首会議をするのがよろしきことかと思考する。

上記（１）と（２）で、メディアと政治と経済の領域での問題を解決に導くことができるので、残るは文化の領域の問題の解決といふことになります。

### （３）文化範疇の問題の解決

この場合の解決策は明確であつて、それは範疇の混同をしない・させないといふ原則を貫徹することです。政治の問題を文化範疇に混同させることを峻拒すべきです。やはりかうなれば、三島由紀夫・安部公房・石川淳・川端康成四名で1967年（昭和42年）に出した、当時中国共産党毛沢東の行つた文化大革命といふ名前の蛮行に反対する共同声明の中の次の一行に戻つて問題を、場合によつては強権的に、整理し、解決することである。要するに政治範疇と文学範疇または藝術範疇の峻別をすることです。三島由紀夫の起草に違ひない（何故なら安部公房全集には入つてゐないから）声明の最後の段落は今も生きてゐる。

「われわれは、学問芸術の原理を、いかなる形態、いかなる種類の政治権力とも異範疇のものに見なすことを、ここに改めて確認し、あらゆる「文学報国」的思想、またはこれと異形同質なるいはゆる「政治と文学」理論、すなはち、学問芸術を終局的には政治権力の具とするが如き思考方法に一致して反対する。」

この「われわれ」を各人ジャーナリスト・新聞記者・報道者が吾がことだと思はなければ、日本のメディアは益々劣化するであらう。75年経てば、アメリカの猿真似で飯の食へた時代はとつくの昔に過ぎてゐると自覚すべきです。これが余計な一言であることを祈ります。アメリカを中華人民共和国、北朝鮮人民共和国、大韓民国と読み替へて下さい。あるひは、フランスでもドイツでもイギリスでも良い。

しかし、また文化の問題とは、始めも終わりも言葉の問題に尽きるので、

### (1.1) SNSの問題

何しろ日本人が言葉の意味もよく考へずにお喋りをし、文字を書いてゐるといふ現状は、1970（昭和四十五年）に三島由紀夫が淡々と、しかし絶望的に語つてゐる時と何ら変はつてゐないのは、SNSといふ最初誕生のときには誰でもが理想を思ひ描きながらしかし思ひ付きの投稿によつて断片的な情報しか発信できない仕組みが逆に悪さをしてゐることから生まれる問題を如何に解決するか、これが解決すべきSNSの欠点を補償する相補的な別のメディアの形態の創造を要求してゐると私は考へる。即ち、体系的な知識と情報を提供する形態を現実ならしめるメディアの出現です。これがネット・メディアでできるものか、それとも20世紀型のマス・メディアを改良してできるものか、それとも第三のメディア形態を創造するものか、選択肢は此の三つです。第三の選択の場合にはOSをTORONにすべしといふ私の主張は既述の通りです〔註1〕。今のところ、この第三のメディア形態に成長しさうな芽であるやうな報道番組はネット・メディアには、マス・メディアは論外として云ふに及ばず、見当たらない。

〔註1〕

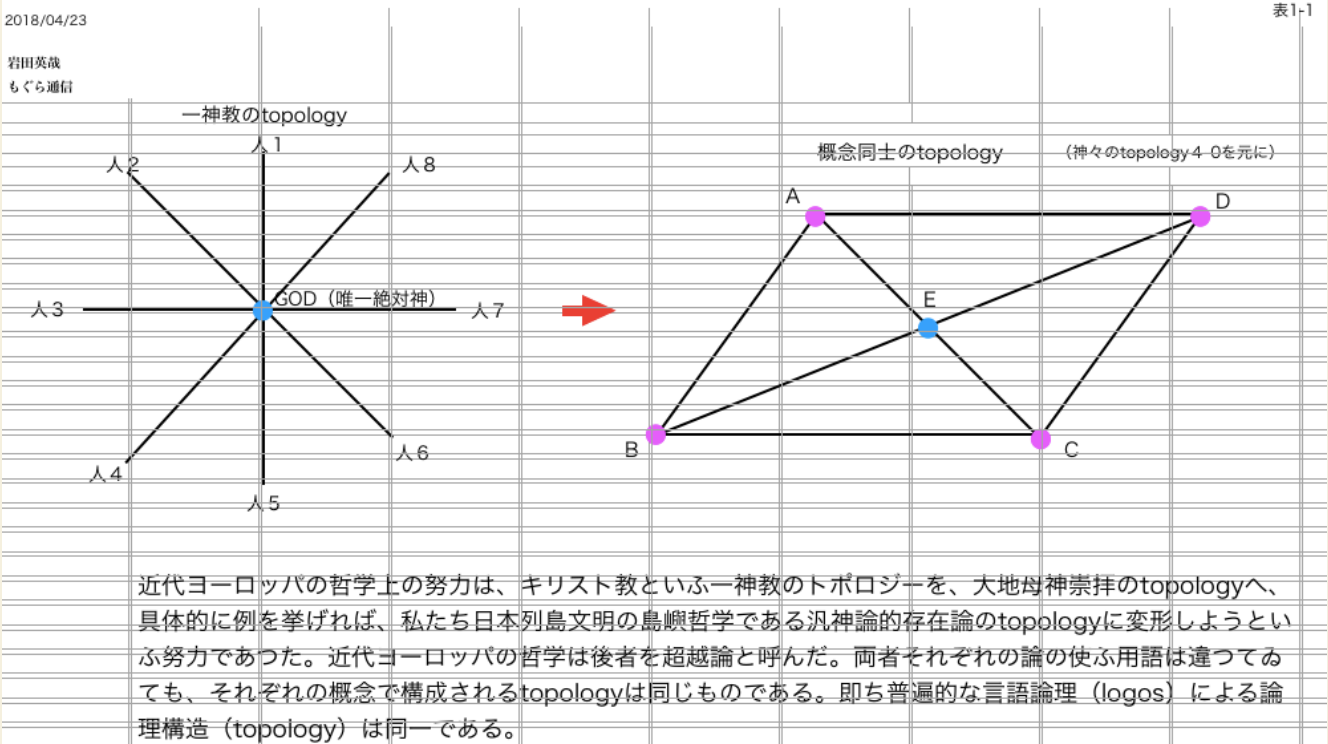
#### 「6.3 二階層戦争論による解決策

(1) 日本人による独自設計に基づくプラットフォームを構築する 結局、今検閲で問題になつてゐるYouTubeといふ動画投稿プラットフォームの強権的な検閲の問題を解決するには、日本人による独自のプラットフォームを構築する以外にはないといふのが私の結論です。このプラットフォームは当然に高天原型トポロジーで形成されてゐる。人工言語はMADEIN JAPANのOSであるTRONを使ひます。」（もぐら通信第117号）

何故民主主義は共産主義であるのか？といふ問ひに、最後に再々度答へたい。『安部公房とチョムスキー（8）』（もぐら通信第81号）から引用して欧米と日本のトポロジーの決定的な相違を思ひ出してもらひたい。唯一絶対神の一神教のトポロジーに理由

もなく盲目的に従はうとする私たちの自己を喪失した哀れなる心が、今の劣化した国情を自ら招いてゐるのだ。

下図左の一神教トポロジーの中心に座すGodを、政治機構上三権分立にすれば民主主義であり、一党独裁にすれば共産主義である。右の私たちの根源的なトポロジーでは、さうはならない。このやうな高天原トポロジーの国をつくるべきです。答へは明かなり。



上図左のGodの位置に首都を置けば、近代国家の構成になる。しかし江戸時代には、左のトポロジーの上に私たちは江戸のほかには京都と大阪があつたことを思ひ出してほしい。この三都を以て成熟した資本主義が、といふことは政治制度の成熟も文化の成熟もあつたといふことを思ひ出してほしい。今こそ其処へと戻るべきではないのだろうか。その根本原理へと。

欧米アングロ・サクソン族の苦しみは、キリスト教を離れて独自に人間に拠つて国を立てようとしても、契約と法律といふことだけでは世の中が纏まらないといふことに原因があります。今や20世紀以来空位になつてゐるGodの絶対的位置を巡つて、ありとあらゆる争ひが起きるし、起きてゐるからです。即ち、その解決は上図の左の一神教トポロジーから私たち日本人のトポロジーに国柄を変形させねばならないのですが、これができない。多分最後までできないでせう。さうであれば、キリスト教といふ宗教に回帰する以外にはないといふのが私の見立てです。キリスト教といふ宗教が個人と国家を繋ぐ媒体 (メディア) であるからです。マス・メディアもネット・メディアも利用する分には良いが、一国の主要な柱となるには、後者は民主主義体制と同じ一神教トポロジーであるが故に、前者は上図右のネットワーク・トポロジーであるにもかかわらず、国家が積極的に関与してゐないといふ点に於いて公共性に乏しく、公共性が未成熟であるからです。

(以下次号)

*Mole Hole Letter*

(48)

岩田英哉

君の中の「君」へ、

この間の二人で交はした雑談から、こんな奇妙な文章が生まれたのでお伝えしたい。例によつて取り止めのない話になるかも知れぬが、ご了解願ひたい。

七十五年前に戦争が終はつて（当時は外務省も終戦といつてゐた）、今の大衆化し通俗化した偽共産主義ではなく、暴力革命を起こさうといふ本物の共産主義が盛んであつて世が騒然としてゐた頃に、日本の企業の品質管理活動にサークル活動といふチームで品質管理をするといふ運動が始まり、これが定着して長いこと日本の企業の品質向上の組織的中心になつて日本の国の経済を支へて来た。ある時から企業も労働組合も、この活動を止め始めるといふ報道に或る時期集中的に接するやうになつたのが、今思ひ出せば、やはり平成の30年間の間での、もつと今に近い10年ほど前の、出来事であつたと記憶する。

私が此のQCサークル活動を此处で挙げるのは、安部公房全集を読んでみると初期安部公房がやはり工場に赴いてサークル活動（これは文化活動としての活動であるが）なるものを行つて、共産党のための組織化活動の手段としてゐたからである。これは、どこかで品質管理のサークル活動といふ工場の現場の一つ一つの問題指摘の改善の声をあげて管理職へとあげて品質改善の実に結びつけるといふ活動が、やはりサークルといふ名前からいつて、どこかで此の穏やかで理性的な統計学的手法を駆使したサークル活動と、暴力的なサークル活動とは、日本人の意識下では通底してゐるだらうと、21世紀の今になつて前の世紀を振り返つてさう思ふからである。品質活動のサークル運動で労働者は豊かになつたので、共産主義のサークル活動は衰退したのではないだらうか。

日本の作家は、ついこの間まで、ヨーロッパの知識人に倣はずとも1世紀100年を単位としてもものを考へてゐたことは、安部公房と三島由紀夫の対談『二十世紀の文学』を読めば明らかであり、この対談に限らず、安部公房の1/4づつエッセイ・小説・詩・論文といふべき『没落の書』では〔註1〕、冒頭に19世紀の問題に関する反省から書き始めてゐて、これは安部公房一人に限らず、また其れ以前の文学・者の作品を読めば、明治以来普通に当時の高等教育を受け読書をしてゐた若者たちに共通の意識であり生きる姿勢であつたと思はれる。いふまでもなく、従ひ、この需要に應へるために、出版業界も良書を出版してゐた。出版社も株式会社である以上、金儲けが目的の半分であるが、残り半分の文化事業に関しては今よりもずっと此れに忠実であつたといふことが言ひたいのである。

〔註1〕

随分と前置きが長くなつたが、今日では、このやうな意識と姿勢はなくなつたのであうか？といふ疑問を、君と話しなが、持つたので、これに答へようと書き出したのが、こまでの文章の生まれた事と次第なのです。それが、掲題の「サークル活動から箱男活動へ」といふ題の由来であり、この題名で判るやうに、今の中国共産党発武漢ウイルス通称新型コロナといふ世界的流行病の流行は、密閉・密集・密接の一言でいふ「三密」を避けよといふ生活必要上の要求から、人の集まる三密の小集団活動であるサークル活動から各人が孤立したがしかし質としては品質活動でありながら三密回避の「箱男活動」といふべき品質活動に転ずる契機となつたのではないか？といふのが私の意見なのです。この活動の名前は、安部公房の読者にしか通じないが、それで十分である。誰もがスマートフォンと呼ばれるmobile（モバイル）ードイツ人はHandy・ハンディと呼んでゐる一を手にして集まる事なく結びついてゐる現代であれば、みな男女を問はず、個別・孤立・孤独の箱男になつてゐるからである。あとはダンボール箱を頭から被るだけである。箱の製作マニュアルは小説の冒頭で箱男が教へくれます。

小林秀雄がどこかで書いてゐたが、仮面を剥いで素顔を見せよといふのが20世紀であつた。此の観点から20世紀を眺めれば、フロイトもマルクスも同列の主義でありイデオロギーである。フロイトは個人の仮面を剥げといひ、マルクスは国家の仮面を剥げと言つた。しかしこれらが何故イデオロギーかといへば、いふまでもなく歴史的にアメリカといふ国に於いて顕著であり特徴的であるが、共に大衆化し通俗化したからであり、アメリカといふヨーロッパの鬼子が政治的にも経済的にも世界的な覇権を欲しいままにしなければ、これらの主義が薄められた共産主義に変じて流行することはなかつた。仮面を剥いで素顔を見せよといふ偽善に、今の日本でいふ70代以上の団塊の世代が如何に毒されてゐるかは、当人が無自覚なだけに一層偽善の度が過ぎて哀れである。安部公房の読者であれば、仮面も素顔もなく、素顔が仮面であり仮面とは素顔であることを知つてゐる。論理展開の仕方は正反対であるが、三島由紀夫の読者もまた、このことはよく知つてゐる。即ち、仮面と素顔は分離不可能であつて、三島由紀夫の読者にあつては肉体の側（がわ）で、二つは一つに結合されてゐる。即ち、団塊の世代はイロニー（Ironie）を理解する能力が、日本人として、致命的に欠落してゐるといふことである。それ故に二者択一の欧米流の（ヘーゲル流のといふべきであらう）排除の論理に取り憑かれる。これさへ知つてゐれば、日本の国もまた総合的な旺盛な生命力を取り戻すであらう、と思ふが、これは政治と経済の専門家に任せて、議論は箱男といふ徹底的な個人化された人々、即ち20世紀の上述せる大衆（people）ではなく、21世紀の個衆（personals）の生命の話と国家の話と媒体（メディア）の話に戻る。

マスク（mask）といふ仮面（mask）を着用して生きなければならないのは、自分が病原菌を撒いて話をする相手にウイルスを伝染させることを恐るからである。といふことは、自分が病氣を持つてゐるかも知れないといふ可能性と、さうであれば現実に誰かに病氣を伝染させて其の人たちを死に至らしめるといふ可能性を普段考へて生きるといふことです。即ち、可能性を現実性に置き換へて、些か図式化していへば、次の二つのことを、私たちは日常生活で意識することを強ひられてゐるといふことになります。

- (1) 私は病気である。それによつて、
- (2) 私は相手を死に至らしめる

もつと古典的な、19世紀的なこと、それ故に20世紀の大衆が相手の仮面を剥げといふ活動の合間にすっかり忘れてしまったことを思ひ出してみよう。

- (A) 生きることは私が病を得てゐる状態で生きるといふことである。そして同時に、
- (B) 私は病あるにも拘らず、病に抗して生きなければならない

といふ現実の話になるだらう。とすれば、ようやくと、私たちは次の分類を思ひ出すのだ。目の前にある何か混沌たるものは、次の段階を踏んで、私たちの現実になるといふことを。

可能性>蓋然性>確実性>現実性  
Possibility>Probability>Certainty>Reality

大衆化した通俗家フロイトも、最初から大衆化し通俗化してゐたマルクスも、最初のP即ち可能性から間にある階梯を素つ飛ばして一気に、最後のR即ち現実性の実現を実現しようとした思想だといふことがわかる。もつと正確にいへば、キリスト教徒、一層正確にいへば「ex-キリスト教徒」の必要としたフロイトでありマルクスであつたといふことです。しかし、私たちが堅実に生きるといふことは、この間を、仮令うろうろとであつても、往来しながら最善の解決策を考へるといふことではないのか。

ネットであれマスであれ、メディアに登場する電波芸者たち（これは絶妙なる筒井康隆用語です）は、可能性といふ言葉を馬鹿の一つ覚えのやうにしていふだけで、蓋然性といふ言葉を知らないのだ。可能性といふ言葉しか知らず、蓋然性が使へぬ転識者（転失気とは仏教用語で屁のことである）や痴識人には現実的な問題解決思考能力はないのである。さうであれば、常に責任回避の感情がついて廻るだらう。即ち、自分の生活の中で、この言葉が生きてゐないのである。君は教養といふことを言つたが、これこそを教養が無いといふべきではないのか？ 転識者や痴識人はもはやたくさんである。ウンザリ蹴つたり。私たちはもう一度明治までの150余年を見直すといふのであれば、文豪夏目漱石が東京帝国大学の英文学の教授の時に学生たちに教師の立つ高い壇上で、次の説明をしたことを、今度は自分に当て嵌めて今の自分の生活を見直してみても如何なものかと思ふのである。

諸君、私が今此の教壇の上で逆立ちをすることはpossibleであるが、しかしprobableではない。



また、漱石の名訳。

Pity is akin to love.

可哀想だた、惚れたつてことよ。

外国語ができるといふのは、これ位に日本語ができてからの話だ。政治家にはこれ位の日本語で、まづ国民に話をしてもらひたい。自分で解りもしないカタカナ語で何かを言つたつもりになつてゐる政治屋は次の選挙で落すことにしよう。これは哀れみではない。何故ならば、政治家といふ職業は、軽蔑と賞讃の対象であつても、愛の対象ではないからである。

## 縄文紀元論

## Topologyで日本人を読み解く (11)

## 5.15 縄文土器とは何か

岩田英哉

## 目次

## I 縄文紀元日本語論

## 1. 日本語と漢語の関係

Intermezzo: 何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかみないのか?

## 2. 日本語の音義と概念の関係: 五十音表とは何か

## 3. 五十音表を記号化する

## 4. 日本人の言語宇宙

## 5. 古事記の宇宙観

## 5.1 高天原とは何か1

## 5.2 カミとは何か1

## 5.3 高天原とは何か2

## 5.4 日本語の特殊の中の普遍

## 5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

## 5.6 天照大神とは何か

## 5.7 月読命とは何か

## 5.7.1 月とは何か

## 5.7.2 月読命とは何か

## 5.7.3 月読神社とは何か

## 5.7.4 ヤシロとは何か

## 5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

## 5.7.6 磐座と注連縄の関係

## 5.7.7 亀の甲羅とは何か

## 5.7.8 習合とは何か

## 5.8 カタカナとひらかなの関係

Intermezzo 2: 海風之大刀 (アマナギ・ノ・タチ) は一体どんな姿をしてみているのか

## 5.9 日本位相習合史

## 5.10 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

## 5.11 かがめかごめの歌は一体何を歌っているのか

## 5.12 縄文土偶とは一体何か

## 5.13 習合といふ漢意をやまところ何といふのか

## 5.13.1 位相史のための紀元の種類

## 5.13.2 淤能碁呂島とは何か

## 5.15 縄文土器とは何か

## (1) 縄文基本用語の種類

## (2) 縄文土器の構造的スケッチ (素描)

## 5.16 大祓へを読み解く

## 5.16.1 何故私たちは御祓を必要とするのか

## 5.16.2 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

## 5.16.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

## (1) 第一段: 高天原八百万神大祓ひ会議

## (2) 第二段: 大倭日高見国内の天津罪と国津罪の種類と大祓

## (3) 第三段: 大倭日高見国は大祓の結果どうなったか

## 5.16.4 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

## 5.17 紫式部の超越論『源氏物語』

## 5.18 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてあるか

## 5.19 ダイダラボッチと巨人伝説: 大倭日高見国と播磨国: 房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

## 5.20 日本人はどこから来たか

青字は既論の章、赤字  
は今回論ずる章、黒字  
はこれから論じる章

## II Topologyで縄文土器を読み解く

## 0. 縄文土器の概念と分類

## 1. 紋様とは何か。目とは何か

## 2. 縄文土器の構成要素

## 3. 縄紋は縄目と渦巻き紋様で出来てゐる

## 4. 縄文土器は三階層で出来てゐる

## 5. 縄文土器には開口土器と閉口土器の二種類がある

## 6. 縄文土器は私たちの宇宙観を体現してゐる

## 7. メディア (媒体) としての縄文土器

## 8. 弥生式土器は二階層で出来てゐる

## 9. メディア (媒体) としての弥生式土器

## 10. 縄文土器と弥生式土器の関係 (topologicalな連続性): 3 (奇数) から 2 (偶数) へ

## 11. 銅鐸は7階層で出来てゐる

## 12. 縄文土器の政治と弥生式土器の政治: 土器と政治の一体と分離: 銅鐸とは何か1

## 13. 縄文土器の経済と弥生式土器の経済: 土器と経済の一体と分離: 銅鐸とは何か2

## IV 21世紀の現代に縄文土器はどのやうに生きてゐるか

## VII 20世紀の幕を閉ぢ、21世紀に生きるための結語

\*\*\*

## 目次

## 5.1.6 縄文土器とは何か

## 5.1.6.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

## (1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

## (2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓へ

## (3) 第三段：大倭日高見国は大祓への結果どうなったか

## 5.1.6.4 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

\*\*\*

## 5.1.6.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

## (2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓へ

前段で「さて、「事依さし賜ふ」とは、このやうに考へて来ると、最初に「事依さし賜ふ」が出てきたところでは、天照大御神が神主を媒体として瓊瓊杵尊に向かつて「安国と平けく所知食（しろしめせ）と/事依さし賜ひき。」とあつたやうに、この「事依さし賜ふ」ことの目的は「豊葦原瑞穂の国を「安国と平けく所知食（しろしめ）」すことであつた。豊葦原瑞穂の国は「所知食（しろしめ）」す、大倭日高見国は「聞こし召す」といふ言葉の階層化がなされ、大祓の、といふことは大倭日高見国の人々による祓ひ言葉の使ひ分けがなされてゐることが解ります。」と云ふ理解から第二段の最初の「事依さし奉（まつり）し」とは、前段最後の同じ文句である「天降り依（よさ）し奉りき」を受けて、「如（か）く依（よさ）し奉りし四方（よも）の國中に」と始まります。

既に前段の「事依さし賜ふ」ことの目的は「豊葦原瑞穂の国を「安国と平けく所知食（しろしめ）」すことであるから、この「豊葦原瑞穂の国」とは大倭日高見国を含む他の国々も入れて全体をいふ大きな国名であるといふことが判ります。それでは、この「豊葦原瑞穂の国」を構成する国々は大倭日高見国以外にどのやうな国があるかといへば、やはり今の東北地方の古名で呼ばれる国々の名を挙げることになるのではないでせうか。

- (1) 陸奥の国
- (2) 奥羽の国
- (3) 出羽の国
- (4) 常陸の国

これらが「四方の国」である。これらの国々とともに、大倭日高見国は「安国」と定め奉る。この「安国」の意味は、さうすると、中心の国といふ意味になる。他の国々をし

ろし召すに十分なほどに安らかなる国、安定した国が安国といふ言葉の意味でせう。さて、「定（しづ）め奉る」のは、他の四方の国も含めて、依然として瓊瓊杵尊である。

さて、主語が瓊瓊杵尊であるか、または話がここまで進むと主語は大倭日高見国であるものか、いずれにせよ大倭日高見国の「下津磐根（したついはね）に宮柱太敷（ふとしく）立て」ることになる。かう読んで来ると、具体的な事柄ですから「宮柱太敷（ふとしく）立て」るのは大倭日高見国であり、「安国と定（しづ）め奉る」のが大倭日高見国でと考へるのが良いと思はれる。

また「太敷く立て」といふ言ひ方が、既に定型的な、従ひ儀式を伴なふ建築と建造のあつたことを思はせます。「太敷く立て」とは永遠に変はることなく安定してといふ意味でせう。そして、実際に太い柱を使つて御宮が立てられた。今の言葉でいへば宮殿といふことです。この宮殿を造営する場所が「下津磐根」である。下津といふ名前から見て、川の下流の津（港）であるか、または山の下に御宮が建てられたと解することができる。何故なら場所の名前が磐根であるからであり、また奈良県三輪山の磐座は、山の麓に辺津磐座、山の中腹に中津磐座、山の頂上に奥津磐座がさう呼ばれて安置されてゐるからです〔註1〕。しかし、果たして「下津」が「辺津」と同じか否かは議論の余地があります。

〔註1〕

平津豊著『イワクラ学 初級編』（45ページ）参照。

そして、磐根であれば岩山の下であつて、直かに岩山の下に建てたか、あるひはまた磐座と云ふシロ（代）を切り出して置いたものか、いずれにせよ、其処には注連縄を締め飾つたと考へることができます。さうして「太敷く立て」ることができた。次に、

高天原>豊葦原瑞穂の国>大倭日高見国>宮柱太敷き宮

と降りて来た次に、宮柱太敷き宮から一気に反転して事は高天原に戻るのです。それが、「高天の原に千木（ちぎ）高知（たかしり）て」とある文句です。ここで類義語を探しますと、罪の列挙の後に「千座（ちくら）」といふ言葉が出て来ますので、この「高天の原に千木（ちぎ）高知（たかしり）て」とは、天津罪・国津罪の穢れを祓ふための儀礼であるか、具体的な祭壇を持つた祭祀の執行があつたものと思はれる。といふことは、何故「宮柱太敷き」宮を建てるのかといふと、これも大祓へをする為である。かくして、大祓へとは高天原に向かつて執行されるものだといふことも判ります。

高天原に参集するのは八百萬の神々といふ萬と云ふ単位の神であるのに対して、豊葦原

瑞穂の国の大倭日高見国にあつては千と云ふ単位の木であり、座である。理屈の上では千の数の木を立て、千の数の座を置いたと云ふことにはなりますが、しかし、これも小さな木と座で全体をトポロジカルに代表させたことは十分に考へることができます。大切なことは、萬（よろず）といひ、千（ち）と云ふ音義に呪言（ことほぎ）の心が宿つてみると云ふことです。この目出度さは今でも変はらない。

「千木（ちぎ）高知（たかしり）て」とあるのですから、日高見国の高（たか）と同じで、天照大御神を仰ぎ見て、この千木を立てることで高天原と意思疎通を図つたのです。それが知ると云ふ言葉の意味であり、「千木（ちぎ）高知（たかしり）て」の意味となります。高天原に上方に願ひ、罪の列挙の後に地上の「千座の置き座に置き足らはし」て、またその他の後述する植物の「本末打切り」と「本末苳断」ちしてから、「天津祝詞の太祝詞事を以て宣（の）る」ことで第二段による罪の穢れの大祓は終はりま

す。

ここまで読んで参りますと「天津祝詞の太祝詞事」の「天津祝詞」とは、「本末打切る」と云ふ「天津金木（あまつかなぎ）」を「千座の置き座に置き足らはし」、および「天津清麻（あまつすがそ）」を「本末苳断八津針に取り辟（さ）」すと云ふ所作をする時に奏上され唱へられた祝詞が、植物の頭に天津とありますから「天津祝詞」であり、その下位に帰属するのが「太祝詞」であつて、何故「太」の音義で呼ばれるかといへば、それが「下津磐根（したついはね）に宮柱太敷（ふとしく）立て」られた御宮で執り行はれたからでありませう。これが「太祝詞事」である。さうであれば、整理をすれば、

- (1) 天津祝詞は、「天津金木（あまつかなぎ）」を「本末打切り」て「千座の置き座に置き足らはし」、および「天津清麻（あまつすがそ）」を「本末苳断八津針に取り辟（さ）」すと云ふ所作をする時に奏上され唱へられた祝詞であり、
- (2) 太祝詞は、「下津磐根（したついはね）に宮柱太敷（ふとしく）立て」られた御宮で執り行はれ、「千座の置き座に置き足らはし」て執り行はれた祝詞である。「執り行はれた祝詞」とは変ないひ方かもしれませんが、具体的な神事の形式が整つてゐて、その進行と同時に唱へられたと云ふ意味です。

「千座の置き座に置き足らはし」と云ふ意味は、このやうに考へて来ますと、あるひは「天津金木（あまつかなぎ）」を「本末打切り」てと云ふ「天津金木（あまつかなぎ）」は、一本一本が罪穢れを背負ふ木なのであつて、それを天津祝詞によつて大祓ひし、次に太祝詞によつて「千座の置き座に」実際に「置き足らはし」て御祓ひを受けたものと思はれます。ここまで書いて来ますと、この「天津金木」とは、天津と云ふ呼称で縁起を祓ひ（時間を取り払ひ）、金木と云ふ名前は本来の名前とは別の仮称であつて、カネ・木は兼ね・木かも知れず、論理の方面から考察しても然り、また用字法から考察しても、金の木とは此れも天津と云ふ冠と同様に別称としての御祓ひの効果を發揮した名前

と察します。

かうして、「天津祝詞の太祝詞事を以て宣（の）る」ことで第二段による罪の穢れの大祓は終わります。誰が「宣（の）る」のかと問へば、文章を遡つて主語を探せば、それは瓊瓊杵尊でありませう。正確にいへば、瓊瓊杵尊になつた神主を媒体として瓊瓊杵尊の声で「宣（の）る」、即ち穢れが総て祓はれたと宣言されるのです。

話が此処で前後しますが、第二段の冒頭で「高天原に千木高知りて」の後に、「皇御孫（すめみま）の尊（みこと）の美頭（みづ）の御舎（みあらか）に仕奉（つかへまつり）て」「下津磐根に宮柱太敷立て」と続くのです。この「皇御孫（すめみま）の尊（みこと）」が瓊瓊杵尊であることは良いとして、次の「美頭（みづ）の御舎（みあらか）に仕奉（つかへまつり）て」とは如何なる意味なのでせうか。

「皇御孫（すめみま）の尊（みこと）の美頭（みづ）」と読めば、瓊瓊杵尊の御頭と云ふことになります。「皇御孫（すめみま）の尊（みこと）の美頭（みづ）」とあへて「美頭（みづ）」と呼んで、その体の一部を呼んで「皇御孫（すめみま）の尊（みこと）」全体を表したと云ふ考へ方をとることもできます。第一段もさうですが、瓊瓊杵尊と云ふ名前は常に隠されてゐて、直接名前を呼ぶことが憚られてゐるのです。

さて、かう云ふわけで、それでは美頭（みづ）」と読めば、瓊瓊杵尊の御頭と云ふことになります。「皇御孫（すめみま）の尊（みこと）の美頭（みづ）」の「御舎（みあらか）に仕奉（つかへまつり）て」とは一体何を云つてゐるのでせうか。ここで古語辞典を引きますと万葉集から柿本人麿の詠んだ草壁皇子の殯（もがりの）宮に関する歌が引かれてをります。

「みあらか【御舎・御殿】

（名）〔万葉二・一六七〕「由縁（つれ）もなき真弓の丘に宮柱太敷き座（ゐま）し御舎（みあらか）を高知りまして」

〔訳〕（草壁皇子は）ゆかりもない真弓の丘に宮柱をりっぱにおたてになり、御殿（＝この場合、死後、埋葬前の間安置する殯（もがりの）宮を堂々と営みなさつて。」

この用例を見ると、「宮柱太敷き座（ゐま）し御舎（みあらか）を高知りま」すことは、このやうな死に深く関係した場合の慣用句であることが判ります。御舎（みあらか）が人の殯（もがりの）宮であるならば、やはり此の御舎（みあらか）はそのやうな死に直面した罪穢れを負ふたひとがどう云ふ形であるか関係する其の臨時のたれ建屋にゐる瓊瓊杵尊に「仕奉（つかへまつり）」るのは誰かと見ますと、この段では神主は既に天照大御神の役目を終へ、単に「皇御孫の尊」とのみ三人称で呼ばれてゐますので、この皇孫に「仕奉（つかへまつり）」るのは、大倭日高見国の然るべき地位のひとといふことになります。

そして、この皇孫に「仕奉（つかへまつ）」の次に来るものが誰かといふと次のやうに唱へられてゐます。

「天の御日陰日（みかげひ）の御陰（みかげ）と深く座（あまし）て安国と平けく所知食す」

御皇孫に仕へ奉る「御舎（みあらか）」に共に深く座すのは「天の御日陰日（みかげひ）の御陰（みかげ）」であるといふ。

「天の御日陰日（みかげひ）」とは太陽の陰といふ意味です。その更に「御陰（みかげ）」とは、これは、天之御中主神ではないでせうか。月は太陽の光を夜受けて光り輝く星ですから、「天の御日陰日（みかげひ）」の「御陰（みかげ）」と敢へて重ねて呼ばれてもおかしくはありません。この言葉でわかることは、天の御日と御陰は陰陽の正反対の関係にあること、光と陰であることです。「御陰（みかげ）」とは、「天の御日陰日（みかげひ）」の陰日（月ではあるまいか）の方といふ意味にとることもできます。いづれにせよ、お月様のことです。

とすれば、この大祓ひは夜間に月の輝る下（もと）で執り行はれたことになります。お月様も共に「御舎（みあらか）」に「深く座（まし）て」「安国と平けく所知食（しろしめ）す」ことをしたのでありませう。「所知食（しろしめ）す」ことは、高天原の神々にしかできませんので、以上の解釈に適つてゐるものと思ひます。

### （3.1）天津罪と国津罪の分類

天津罪と国津罪の分類を表にして掲げます。

2020/08/23 岩田英哉		天津罪・地津罪の分類表	
あまつつみ		くにつつみ	
天津神	1 畔放（あはな）ち	地津神	1 生（いき）の膚断（はだたち）
	2 溝埋（みぞうめ）		2 死（なをる）の膚断（はだたち）
	3 樋（ひ）放ち		3 白人（しらひと）胡久美（こくみ）
	4 敷蒔（しきまき）		4 己が母を犯し
	5 串刺（くしさし）		5 己が子を犯し
	6 生剥（いきはぎ）		6 母と子と犯し
	7 逆剥（さかはぎ）		7 子と母と犯し
	8 糞屎（けがし）		8 畜（けもの）犯せる罪
			9 虫昆（はうむし）の災ひ
			10 高津神の災ひ
			11 高津鳥の災ひ
			12 畜（けもの）仆（たお）し虫物（まじもの）せる罪

2020/08/23  
岩田英哉

## 天津罪・地津罪の分類表

あまつつみ		くにつつみ	
天津神	1 畔放 (あはな) ち	地津神	1 生 (いき) の膚断 (はだたち)
	2 溝埋 (みぞうめ)		2 死 (なをる) の膚断 (はだたち)
	3 樋 (ひ) 放ち		3 白人 (しらひと) 胡久美 (こくみ)
	4 敷蒔 (しきまき)		4 己が母を犯し
	5 串刺 (くしさし)		5 己が子を犯し
	6 生剥 (いきはぎ)		6 母と子と犯し
	7 逆剥 (さかはぎ)		7 子と母と犯し
	8 糞屎 (けがし)		8 畜 (けもの) 犯せる罪
			9 虫昆 (ほうむし) の災ひ
			10 高津神の災ひ
			11 高津鳥の災ひ
			12 畜 (けもの) 仆 (たお) し虫物 (まじもの) せる罪
	以上の罪を「法別 (のりわけ) 出 (いだ) した結果出てくる罪		以上の罪を「法別 (のりわけ) 出 (いだ) した結果出てくる罪
	9 許々太久 (ここたく) の罪		13 許々太久 (ここたく) の罪

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓への結果どうなつたか

(次号に続く)



Topologyで日本の文化を解説する

「内なる辺境」シリーズ

(11)

## 稲荷寿司

岩田英哉

『縄文紀元論』で至った結論を元に、奇想天外な論を展開してみたい。

コトシロ・カタハ、猷立・縄文土器、磐座・注連縄、カタカナ・ひらかな、御陵・御堀、御城・御堀、御花・花器、御抹茶・茶器といふ関係を、そのまま稲荷寿司に適用するとどうなるか。



稲荷寿司とは、米と器（ウツ・端）の関係からなる寿司である。米は文字通りにシロ（白）であり、器になる油揚げは袋（凹）です。要するに袋といふ存在の凹（穴）に米を詰めれば稲荷寿司になる。

そのもとを辿って、米の生まれた地形を見れば、これは、このまま水田の縁取りの畔（あぜ）の片端といふ器（うつは）と水を張った中に立つ稲穂の関係の形象に等しい。日本の水田は恰も仕切られた幕内弁当のやうである。



ところで、形はともかくも、稲荷寿司といふ名前の由来は、油揚げが狐色なので、この連想からお稲荷さんといふことで稲荷寿司といふことなのでせう。そこで、稲荷神社の祭神

はと調べると、やはり食物に関係する神様が祀つてありました。

#### 「神社における祭神

神道の稲荷神社では『古事記』・『日本書紀』などの日本神話に記載される宇迦之御魂神（うかのみたま、倉稲魂命とも書く）、豊宇気毘売命（とようけびめ）、保食神（うけもち）、大宣都比売神（おおげつひめ）、若宇迦売神（わかうかのめ）、御饌津神（みけつ）など、穀物・食物の神を主な祭神とする。これは、稲荷神が稲の神であることから食物神の宇迦之御魂神と同一視され、後に他の食物神も習合したためである。

総本宮である伏見稲荷大社では、主祭神である宇迦之御魂大神を中央の下社、佐田彦大神を中社、大宮能売大神を上社に据え、明応8年（1499年）に本殿に合祀された[15]左右の摂社、田中大神・四大神とともに五柱の神を一字相殿（一つの社殿に合祀する形）に祀り、これら五柱の祭神は稲荷大神の広大な神徳の神名化としている[16]。稲荷社によっては祭祀する祭神が異なっており、以下に例を挙げる。

- ・生玉稲荷神社（名古屋市守山区） - 倉稲魂神、大己貴命、保食神、大宮能姫神、太田神
- ・笠間稲荷神社（茨城県笠間市） - 宇迦之御魂神
- ・豊受稲荷本宮（千葉県柏市） - 主祭神に稲蒼魂命、配神に大己貴命、大田命、大宮姫命、保食命
- ・祐徳稲荷神社（佐賀県鹿島市） - 倉稲魂大神、大宮売大神、猿田彦大神
- ・竹駒神社（宮城県） - 倉稲魂神、保食神、稚産霊神

また豊受稲荷本宮では、大己貴命を佐田彦大神、大宮姫命を田中大神、保食命を四大神に、祐徳稲荷神社では大宮売大神をアメノウズメノミコトに当てている。稲荷系の神社では、玉藻の前（九尾の狐・殺生石）が祭られていることもある。」

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/稲荷神>)

稲荷といふ名前が、稲穂が成る稲成りといふ語源であるならば、稲穂のホはホトのホであり、炎のホであり、ツホ（ツボ・壺）のホでありますから、最後のツボとは縄文土器のうち現代語でもツボと呼びうる器の用途が自づから知られると、縄文土器の用途分類に至るかとも思はれるのです。

そして、もし海外の水田の形が、自然の理由によつて、日本の水田と同じ形をしてゐるならば、稲作文化を共有してゐるといふことですから、そのやうな国との交流を深めることは意義のあることだと思はれます。即ち、流行を追ふのではなく、このやうな不動の文化視点での海外との交流をすることができるといふことです。不動であれば、永続するでせう。

## 連載物・単発物次回以降予定一覧

- (1) 安部浅吉のエッセイ
- (2) もぐら感覚23：概念の古塔と問題下降
- (3) 存在の中での師、石川淳
- (4) 安部公房と成城高等学校（連載第8回）：成城高等学校の教授たち
- (5) 存在とは何か～安部公房をより良く理解するために～（連載第5回）：安部公房の汎神論的存在論
- (6) 安部公房文学サーカス論
- (7) リルケの『形象詩集』を読む（連載第15回）：『殉教の女たち』
- (8) 奉天の窓から日本の文化を眺める（6）：折り紙
- (9) 言葉の眼12
- (10) 安部公房の読者のための村上春樹論（下）
- (11) 安部公房と寺山修司を論ずるための素描（4）
- (12) 安部公房の作品論（作品別の論考）
- (13) 安部公房のエッセイを読む（1）
- (14) 安部公房の生け花論
- (15) 奉天の窓から葛飾北斎の絵を眺める
- (16) 安部公房の象徴学：「新象徴主義哲学」（「再帰哲学」）入門
- (17) 安部公房の論理学～冒頭共有と結末共有の論理について～
- (18) バロックとは何か～安部公房をより良くより深く理解するために～
- (19) 詩集『没我の地平』と詩集『無名詩集』～安部公房の定立した問題とは何か～\*
- (20) 安部公房の詩を読む
- (21) 「問題下降」論と新象徴主義哲学
- (22) 安部公房の書簡を読む
- (23) 安部公房の食卓
- (24) 安部公房の存在の部屋とライブニッツのモナド論：窓のある部屋と窓のない部屋
- (25) 安部公房の女性の読者のための超越論
- (26) 安部公房全集未収録作品
- (27) 安部公房と本居宣長の言語機能論
- (28) 安部公房と源氏物語の物語論：仮説設定の文学
- (29) 安部公房と近松門左衛門：安部公房と浄瑠璃の道行き
- (30) 安部公房と古代の神々：伊弉册伊弉諾の神と大国主命
- (31) 安部公房と世阿弥の演技論：ニュートラルといふ概念と『花鏡』の演技論
- (32) リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む
- (33) 言語の再帰性とは何か～安部公房をよりよく理解するために～
- (34) 安部公房のハイデッガー理解はどのやうなものか
- (35) 安部公房のニーチェ理解はどのやうなものか
- (36) 安部公房のマルクス主義理解はどのやうなものか
- (37) 『さまざまな父』論～何故父は「さまざま」なのか～
- (38) 『箱男』論II：『箱男』をtopologyで解読する
- (39) 安部公房の超越論で禅の公案集『無門関』を解く
- (40) 語学が苦手だと自称し公言する安部公房が何故わざわざ翻訳したのか？：『写真屋と哲学者』と『ダム・ウエイター』
- (41) 安部公房がリルケに学んだ「空白の論理」の日本語と日本文化上の意義について：大国主命や源氏物語の雲隠の巻または隠れるといふことについて
- (42) 安部公房の超越論
- (43) 安部公房とバロック哲学
  - ①安部公房とデカルト：cogito ergo sum
  - ②安部公房とライブニッツ：汎神論的存在論
  - ③安部公房とジャック・デリダ：郵便的 (postal) 意思疎通と差異
  - ④安部公房とジル・ドゥルーズ：褻といふ差異
  - ⑤安部公房とハラルド・ヴァインリッヒ：バロックの話法
- (44) 安部公房と高橋虫麻呂：偏奇な二人 (strangers in the night)
- (45) 安部公房とバロック文学
- (46) 安部公房の記号論：《 》 〈 〉 ( ) [ ] 「 」 『 』 「……」
- (47) 安部公房とパスカル・キニャール：二十世紀のバロック小説（1）
- (48) 安部公房とロブ＝グリエ：二十世紀のバロック小説（2）

- (49) 『密会』論
- (50) 安部公房とSF/FSと房公部安：SF文学バロック論
- (51) 『方舟さくら丸』論
- (52) 『カンガルー・ノート』論（済み）
- (53) 『燃えつきた地図』と『幻想都市のトポロジー』：安部公房とロブ＝グリエ
- (54) 言語とは何か II（済み）
- (55) エピチャム語文法（初級篇）
- (56) エピチャム語文法（中級篇）
- (57) エピチャム語文法（上級篇）
- (58) 二十一世紀のバロック論
- (59) 安部公房全集全30巻読み方ガイドブック
- (60) 安部公房なりきりマニュアル（初級篇）：小説とは何か
- (61) 安部公房なりきりマニュアル（中級篇）：自分の小説を書いてみる
- (62) 安部公房なりきりマニュアル（上級篇）：安部公房級の自分の小説を書く
- (63) 安部公房とグノーシス派：天使・悪魔論～『悪魔ドゥベモウ』から『スプーン曲げの少年』まで
- (64) 詩的な、余りに詩的な：安部公房と芥川龍之介の共有する小説観（済み）
- (65) 安部公房の/と音楽：奉天の音楽会
- (66) 『方舟さくら丸』の図像学（イコノロジー）
- (67) 言語貨幣論：汎神論的存在論からみた貨幣の本質：貨幣とは何か？
- (68) 言語経済形態論：汎神論的存在論からみた経済の本質：経済とは何か？
- (69) 言語政治形態論：汎神論的存在論からみた政治の本質：政治とは何か？
- (70) Topologyで神道を読む（1）：祓詞と祝詞と結界のtopology
- (71) Topologyで神道を読む（2）：結び・畳み・包みのtopology

[シャーマン安部公房の神道講座：topologyで読み解く日本人の世界観]

- (71) 超越論と神道（1）：言語と言霊
- (72) 超越論と神道（2）：現存在（ダーザイン）と中今（なかいま）
- (73) 超越論と神道（3）：topologyと産霊（むすひ）または結び
- (74) 超越論と神道（4）：ニュートラルと御祓ひ（をはらひ）
- (75) 超越論と神道（5）：呪文と祓ひ・鎮魂
- (76) 超越論と神道（6）：存在（ザイン）と御成り
- (77) 超越論と神道（7）：案内人と審神者（さには）
- (78) 超越論と神道（8）：時間の断層と分け御霊（わけみたま）
- (79) 超越論と神道（9）：中臣神道の祓詞（はらひことば）をtopologyで読み解く：  
古神道の世界観
- (80) 三島由紀夫の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (81) 安部公房の世界観と古神道・神道の世界観の類似と同一
- (82) 『夢野乃鹿』論：三島由紀夫の「転身」と安部公房の「転身」
- (83) バロック小説としての『S・カルマ氏の犯罪』
- (84) 安部公房とチョムスキー
- (85) 三島由紀夫のドイツ文学講座
- (86) 安部公房のドイツ文学講座
- (87) 三島由紀夫のドイツ哲学講座
- (88) 安部公房のドイツ哲学講座
- (89) 火星人特派員日本見聞録
- (90) 超越論（汎神論的存在論）で縄文時代を読み解く
- (91) 「『使者』vs.『人間そっくり』」論

- 巻頭詩（10）：一つのメルヘン：中原中也：小林秀雄を読んでみて、この詩が引用されてきたので、引用しました。
- 『周辺飛行』論（33）：3。『周辺飛行』について（21）：次の小説のためのノートより——周辺飛行30：安部公房はいつも安部公房。どこに行っても安部公房。何を書いても安部公房。
- 『砂漠の思想』を読む（9）：Iヘテロの構造/ヘビについてI：これで『砂漠の思想』を読むのはおしまひ。次は『猛獣の心に計算機の手を』か『内なる辺境』か『死に急ぐ鯨たち』から。『東欧に行く』をAmazonで検索したら2万円でした。その他の通販でも軒並み高い。
- 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（4）：塔の文学：3。三島由紀夫の塔と安部公房の塔/3.3 安部公房の塔：三島由紀夫の塔が文章量が多くて、安部公房が少ないのは読者が安部公房の読者だからです。これ、依怙鼯鼠でも弁解でもありません。
- ネット・メディア論（11）：6.5 何故民主主義は共産主義であるのか：トポロジーの図を再掲して、問題の解決法を提示しました。専門家たちよ、いい加減にしつかりしてくれ。自分の本分を尽くしてくれ。私は私で自分の本分を尽くしてゐるのだ。
- Mole Hole Letter（48）：サークル活動から箱男活動へ：pax coronaの時代は箱男の時代です。さあ、段ボール箱を被つて街へ出よう。三密回避は最初からの箱男。
- 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（11）：5.16.3「聞こし召す」前に「しろし召す」がある/（2）第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓：罪の内容に一々立ち入ると嵌つてしまひさうだつたのでやめました。後日の課題とします。
- Topologyで日本の文化を解説する「内なる辺境」シリーズ（11）：稲荷寿司とは何か：なるほど稲荷寿司もトポロジーの産物でした。美味けれあ、いいといふのでも良いのですが、理屈をあへて立てました。稲荷寿司を食べて変身するといふ話が、安部公房ならば書けさうな。『狐色の寿司』といふ題名で。

差出人：

廣安部公房

〒182-0003東京都調布  
市若葉町「閉ざされた無  
限」

次号の原稿締切は超越論的にありません。いつでもご寄稿をお待ちしています。

次号の予告

1. 『周辺飛行』論（34）
2. 縄文紀元論（13）
3. 私の本棚：西尾幹二著『あなたは自由か』を読む～自由と奴隷について～
4. 哲学の問題101（11）：愛（Liebe：リーベ）
5. 大久保房雄を読む（1）：文壇とは何であつたか
6. サンチョ・パンサを求めて（11）：ドーナツの穴になつた話

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館、コロンビア大学東アジア図書館、「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。

